

# ふじみの



No. 33

東京農大畜友会

## 「ふじみの」第三十三号発刊にあたつて

畜産学科 学科長 百目鬼 郁男

この度、畜産学科畜友会の機関誌「ふじみの」が刊行される運びとなり、心からのお慶びを申し上げます。私が初めて手にした三十二号の奥付には平成五年三月一日とあります。四年ぶりの本誌の刊行、その喜びは一入であり、編集に携わった関係者の努力に敬意を表します。

さて、今年も卒業生を送り、そして新入生を迎える季節がやってきました。学窓を巣立ち、晴れて社会人となる皆様、本当におめでとうございます。あなた方を迎える社会の情勢には厳しいものがありますが、畜産学徒として本学科で学んだ四年間の蓄積を糧に、力強く活躍して行けるものと確信いたします。

また、難関を越えて農大生になられた新入生の皆様、御入学おめでとうございます。あなた方は栄えある農大生として畜産学科に所属し、今日からは畜友会の会員でもあります。入学そして畜友会への入会、心からお祝い申し上げます。

いま正に、全世界、全人類が食糧問題、環境問題を英知をもって真剣に考えなければならぬ時です。二十一世紀の明るい地球づくりは皆様方畜産学徒の双肩にかかるべきことを認識し、大いに勉学に励んで下さい。また大学は豊かな人間形成の場でもあります。畜友会を中心となつて取り行う収穫祭、スポーツ行事等に積極的に参加し、先輩、同輩と語らい、かつ汗して下さい。

畜友会活動に積極的に参加することは、あなたの大学生活をより意義あるものとし、青春の思い出を残してくれるものと信じます。「ふじみの」三十三号の刊行を祝い、そしてまた、来春には三十四号を手にすることが出来ることを期待いたします。

## ふじみの発刊にあたり

畜産学科三年 矢 部 剛 史

菜の花の香り漂い、桜の芽もほころぶ今日この頃、ようやく蛙が冬眠から覚めた今、「ふじみの」第三十三号を発刊する事になりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方、学生達の原稿を記載すると共に、平成六・七・八年の二年間の事業報告、決算報告等を記載しています。一人一人が一生懸命書いた文章であり、編集委員の汗が染み込んでいますので、皆さん最初から最後までしっかり読んで下さい。

# ふじみの 目 次

第33号

ふじみの発刊にあたり

同窓会だより

同窓会長あいさつ

百目鬼郁男  
友人との人間関係  
「例の話」

二年 神田 正己  
一年 高田 直子

二年 神田 正己  
一年 高田 直子

14 12

研究室だより

畜産振興会

集う学友

東京農業大学畜産振興会の紹介

渡邊 誠喜

畜産物利用学研究室  
家畜飼養学研究室  
畜産共通研究室

家畜生理学研究室  
家畜繁殖学研究室  
家畜衛生学研究室

7

伊藤 澄磨

畜産物利用学研究室  
家畜飼養学研究室  
畜産共通研究室

8

タンザニアの大地  
農大生の祭『収穫祭』

四年 武児 高名  
三年 池 さおり  
11 9

平成五年度畜友会事業報告  
平成五年度畜友会決算報告  
東京農業大学農友会第一〇二回収穫祭  
畜産学科統一本部決算報告

58 50 43 37 30 29 21 15

収穫祭だより

三回の収穫祭を終えて

宣伝隊に入つて得たもの

仲間 前夜祭・特別企画をおえて

家畜苑 本当の仲間に会えた

第一〇五回収穫祭

体育祭（小林瑞樹とそのおまけたち）

特別企画委員長を終えて

家畜苑、いつまでも

北門装飾を終えて

宣伝隊

“ふじみの”の由来

畜友会だより

平成五年度畜友会事業報告

平成五年度畜友会決算報告

東京農業大学農友会第一〇二回収穫祭  
畜産学科統一本部決算報告

平成六年度畜友会事業報告

平成六年度畜友会決算報告

東京農業大学農友会第一〇三回収穫祭  
畜産学科統一本部決算報告

創立一〇三年収穫祭結果報告

平成七年度畜友会事業報告

平成七年度畜友会決算報告

東京農業大学農友会第一〇四回収穫祭  
畜産学科統一本部決算報告

89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79

58 50 43 37 30 29 21 15

第二十五回学内スポーツ大会結果報告

創立一〇四年収穫祭結果報告

平成七年度畜友会役員名

平成八年度収穫祭結果報告

平成八年度畜友会決算報告

東京農業大学農友会第一〇五回収穫祭

畜産学科統一本部決算報告

創立一〇五年収穫祭結果報告

第二十六回学内スポーツ大会結果報告

平成八年度畜友会役員名

平成九年度畜友会事業計画（案）

平成九年度畜友会役員名

東京農業大学畜産学科“畜友会”規約

102 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90

編集後記

同窓会だより

同窓会長あいさつ

畜産学科同窓会

会長 伊 藤 澄 麟

この間に

- 一、畜産学科（畜友会）への援助
- 二、新入会員および卒業祝賀会への援助
- 三、会員名簿の追補発行
- 四、同窓会報の発行
- 五、総会および親睦会の開催
- 六、役員および常任幹事会の開催

等の諸行事を行っております。

卒業生の諸氏は、本日より同窓会の会員となられる訳であります。どうか、ここ東京農業大学農学部畜産学科で学び成長されたことを生涯の絆として各界でご活躍されることをお祈りいたします。

畜産学科は、昭和二十八年に第一回の卒業生二十七名が世に出て以来、今日までに四十四回（平成七年度）の卒業式が行われ、延べ五千三百五十九名の同窓生が、国内外を問わず、畜産業界ならびに関連産業界においてそれぞれ活躍されております。

我々の畜産学科は、昭和二十四年に千葉県茂原において千葉農学部畜産学科として設置され、昭和三十六年に茂原から世田谷に移転し、丁度四十周年に当たる昭和六十三年に「東京農業大学農学部畜産学科同窓会」が発足して今日に至っております。

本会は、会員相互の親睦をはかり、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的として設立され、会員の皆様のご協力により着々とその事業を展開し、九年目を迎えております。

## 東京農業大学畜産振興会の紹介

東京農業大学畜産振興会

会長 渡 邊 誠 喜

畜友会の機関誌「ふじみの」の紙上を借りて東京農業大学畜産振興会について紹介させて頂きます。

この畜産振興会は平成三年三月二十三日に設置され、その事務所は畜産学科内に置かれています。本会の設立の目的および事業はその規約に東京農業大学農学部畜産学科および同大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・学術研究の向上に資することを目的とし、本会の事業としては、

- (1) 学生への奨学金の貸与、補助
- (2) 学生の海外研修に対する補助、助成
- (3) 優秀卒業論文の表彰
- (4) その他目的を達成するために必要な事業となつて居ります。本会は役員として理事・監事が選任され、理事会を組織し、必要事項が審議・決定され、運

當されています。また、役員以外に評議員による評議員会が組織され、会の運営に遗漏のないよう配慮されています。

本会の資産は

- (1) 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金
- (2) 賛助会員会費
- (3) 一般寄付金
- (4) その他の収入

となつて居ります。本会設立の発端は畜産学科同窓会からの寄付金並びに(故)江渡宇徳君(平成二年十二月、当時畜産学科二年次生)のご遺族からご寄付によるものであります。その後、何件かの寄付が寄せられ、本会の原資となっています。

これまでの事業としては平成二年度以降毎年農学部畜産学科の優秀卒業論文を一件ずつ表彰すると共に、平成六年度以降には大学院生の海外研修に対しても助成するなど、逐次事業も拡大して居ります。それにしても、資産を増加させることが事業の拡大に直接係るところでありますので、役員一同努力致している処であります。卒業生には本会の設立趣旨を理解され、本会の育成のためご支援賜り度く、お願い申します。また、在校生にあっては、本会の目的に叶う事柄が生じた場合には、本会を活用され、充実した学生生活を送られますよう祈つて止みません。

### 集う学友

## タンザニアの大地

畜産学科四年 武 児 高 名

これは私が高校一年の時にアフリカに行つたときの話である。

そもそもこのアフリカ行きの話が私のもとに舞い込んできたのは知り合いが反アパルトヘイト団体のツアーでアフリカのタンザニアに行かないかという話があつたので迷わずこのツアーに参加することに決めた。

行きのルートとして成田を出発後、香港で飛行機に乗り換えその後中継地であるサウジアラビアのマスカットに到着する。まずここで飛行機を降り、次の飛行機まで十時間も空港内で待つていなければならなかつた。これがまた退屈なので、ここで今回の旅を共にする人達と自己紹介をする、何しろ時間はたっぷりあるのだから。狭い空港のロビーで十時間を何とか解消し、夜明けに飛行機に搭乗して、一路タンザニアを目指す。タンザニアに到着する前に誰かが「キリマンジャロ」と叫んだ。窓から下を見るとキリマンジャロ山が見えた。今回のツアーはキリマンジャロに行く予定はなかったので十分目に焼

きつけておいた。日本から二十時間以上かけてやっとタンザニアの首都ダルエスサラームに到着した。

タンザニアに着いてから一日目、夜明けに突然街中は何語だかわからぬ経文の様な言葉が聞こえた。いきなり眠りを中断されて驚いた。後で聞くとイスラム教のコランだったらしい、しかしイスラム教の信者は別に気にしないだろうが他の宗教の人はどう思うのだろうか。この日は現地で反アパルトヘイトの活動をしている根本氏の案内でタンザニアの旧都バガモヨを訪れる。タンザニアに来てから三日目、この日はタンザニア東部にあるザンジバルへ移動するため朝から飛行場に向かうがこの日私達には心配事があった。それはタンザニアの飛行機事情である。タンザニアの飛行機は天候が悪化したり飛行機の調子が悪かったりすると(日本ではとても考えられないが)急にその日の便を中止してしまうドタキャンありの国なのである。だから必ずリコンファーム(予約再確認)をしなければならないのだが、たとえそれをしておいても空港の職員が「ダメ!」と言えばそれまでなのである。そして予想通り本日の飛行機は飛ばなくなつたと言う知らせが入り結局、空路でザンジバルに行く事は不可能となつた。仕方がないので船で行く事になったが夕方に出港するのでそれまで時間を潰すため、ダルエスサラームを散策する事になった。カリアコという市場を見に行き、タンザニアの民族衣装、カンガを見てみた。さすがアフリカ原色豊かな衣装だ。

市場の周辺や街の中で時々、マサイを見掛けた。初めて見るマサイだったので写真を撮ろうとカメラを向けると突然マサイが拒否するポーズを取り、その後指を擦りあわせ「money, money」と呟く。ツアーで一緒の人が「マサイは写真は魂を抜かれるものと言われているので、写真を撮るのなら金を払えと言う訳さ」と教えられ、慌てて写真は撮っていないというジェスチャーをして難を逃れた。私が会ったマサイは付近の集落からマサイの装飾品のビーズの首飾りなどを観光客に売りに来ていたらしい。現代のマサイは牧畜だけでは生活が苦しいらしい。彼らはタンザニアの公用語のスワヒリ語は話せずマサイの言葉しか話せないと、客に物を売るときには間にマサイの言葉を話せるタンザニア人がそれを通訳し、それでやっと売買が成立するらしい。

市内を見物後、ザンジバルへ出発する。到着後は今回のツアーの目的である奴隸売買のあった教会等を見学する。奴隸の売買を行う場所に教会が使用されていたとうのを知つて愕然とした。奴隸を祭壇に並べて一人ずつ鞭を打ち、泣き叫んだ奴隸は安く重労働の所に売られるが鞭に耐えて泣き叫ばなかつた奴隸は高く使用人などに売られたらしい。教会の隣の建物の地下には奴隸の売買に出される前の奴隸を収容する部屋があつたが、その部屋は八畳ぐらいで、そこに百人程の人を詰め込んでいた

ところを見学して、身の毛の立つ思いだつた。人が人を

売買し、そして買い取つた人を人として扱わざ酷使し、反抗すれば殺してしまふ、その様な事が数十年前まで続いていたのだ。なぜ人はその様な過ちを行つていたのだろうか？

今こうして思い返してみるとタンザニアは私の行った生まられて初めての共産主義の国であった。そう考えてみると色々と共産主義の大元であったロシアと酷似する面があつた様な気がする。確かに日本と比べて買い物一つするにもレジを2、3台タライ廻しにされて、出てくる頃には一時間近く経つたりすることがあつたり、飛行機に代表されるアバウトさや整備の粗らさなどが本で読んだロシアのようだつた。しかし、タンザニアに滞在していたのは僅かな期間であつたが七年近く経つた今でもはっきりと思い出す事ができる。

今ではその当時騒がれていたアパルトヘイトもデクラーク政権になつてからは徐々に変化を遂げ、ついにはアパルトヘイトが廃止になり現在ではANC（アフリカ民族会議）の議長であったネルソン・マンデラが南アフリカでは初の黒人大統領に就任している。

しかし、現在の南アフリカでは黒人の民族間抗争が起きたりと大変であるが、まあ大丈夫だろう、きっと和解ができると思う。

七年前に初めてアフリカを訪れたがあれからまだアフリカを訪れる機会が無い。しかしこれからまだ機会はいくらでもあると思うのでまた訪れたいと思う。

## 農大生の祭『収穫祭』

三年 池 さおり

私が東京農業大学に入学して、早くも三年が過ぎようとしている。その三年間のほとんどをこれに費やしたといつても過言ではない『収穫祭』というものを皆さんにはご存知だろうか。いや、もちろんご存知ではあると思うが、その収穫祭に参加したことはあるだろうか。来場者を含めると、収穫祭には農大生の約四割から五割の方は参加したことがあると思われる農大ならではの祭である。ここではその収穫祭の『農大ならでは』の部分について少し書いてみようと思う。

収穫祭は前夜祭・特別企画本部が中心となつた野外ステージ企画（特別企画）、文化学術展本部が支える数十団体による学術発表や文化展示、模擬店本部が支える百余団体の数々の模擬店、体育祭本部が支える各学科対抗の体育祭。またこの収穫祭を学外に広く知らしめる為の伝隊本部、そしてこれら全て、つまり収穫祭について細部にわたるまでを統括する実行本部、以上六本部が収穫祭の中枢を支えている。他大学の学園祭をご覧になつた方ならすぐおわかりになると思うが、収穫祭はどちら今まで全て学生の手作りである。確かに役員の中にはたく

さんの先生方が名を連ねていらっしゃるし、もちろん先生方や学校側の理解、協力あってのものなのだが、実際に祭を作つていく過程においては、全て学生が行つてゐる。

現在、他大学の学園祭においては、どちらかというと企業色を強く打ち出しているものが多い。つまり協賛（スポンサー）である。企業は、学園祭運営の為に必要な物品や商品を提供してくれ、そのかわりに大学側はその企業を目一杯宣伝する。確かに両者共に利益がある素晴らしいビジネスである。しかし、私個人としてはそれがどうも好きになれない。学園祭というよりも、企業主催のイベントに大学名がくつ付いているという感じで、各大学の特徴がほとんどなく、どこに行つても同じ大学のような気がするからだ。

それに比べて（役員の私が言うのも恥ずかしいが）農大の学園祭『収穫祭』は、模ぎ店、研究発表、さまざまな展示物、特別企画、どれをとっても、農大ならではのものばかりで、「収穫祭に来たんだ！」という充実感がたっぷり味わえる。他大学に比べて、地域の人々がたくさんお越し下さるもの、そういう理由からだろう。農大生にしか作れない、農大の祭『収穫祭』。平成十年度から農学部が厚木キャンパスへ移転するということもあり、今後が気になるところであるが、この収穫祭（まつり）を決して絶やすことなく、私達学生の手でさらなる歴史を築いていきたく思う。

みなさんも、各部や、各研究室また我が畜産学科の一人員としてぜひ収穫祭に参加してみて下さい。ますます農大が好きになりますよ。

## 友人との人間関係

畜産学科二年 神田正己

講義と講義の間の休み時間。教室で、廊下で学生がグループをつくって話をしている。今話題になっているテレビ番組の話、スポーツの話。人気のグッズや芸能人、歌手の話。テレビ・雑誌等で紹介されたアミューズメントパークやプレイスポートの話から、今度の日曜日遊びに行かないか、との誘い。グループによつて話の内容は違うと思うが、おそらくは各グループ内の人々に共通した話題であろう。講義のある日は集まつて話をする。見慣れた光景だ。

いつからか僕は彼らについてあることを調べたいと思うようになった。「彼らは一体どれくらい親密につき合っているのだろうか。また、彼ら一人一人はお互いをどれくらい知っているのだろうか。」こんなことを書くと、読んだ人は「こいつ、おかしいんじゃないかな。」と思うかも

ろがしばらくたつとグループのうちの誰かがおしゃべりをこそそそと始めた。おしゃべりを聞いている方もつられてしゃべり出す。前の席のグループは、というと居眠りをしていたり内職をしていたり本を読んでいたりと各個人で好き勝手なことをしている。

次に、休み時間になつて後方で固まっている男女混合のグループに近づいてみた。知り合いがそのグループについて、近づくと声をかけられたが、特に変には思われずそのグループの近くで彼らの話を聴いてみると個人で好き勝手なことをしている。途中から聴いていたので何の話をしているのかよく分からなかつた。しかしグループの雰囲気は多少感じ取れた。このようないい人間観察を何日間か続けた。そして僕なりに考えて今の学生の人間関係を推測してみると、今の学生の多くは日常の人づき合いを非常に大事にするようだ。講義のある日は必ず顔を合わせて互いに声をかけ、休み時間には何かしらの話に花が咲く。別れる時には別れの挨拶を交わす。休日にはグループでどこかに出かけ、一日中楽しむ。たいていのグループはメンバーが一定していて変動することはあまりない。また、彼らは意識していないのだが、各メンバーの内面的なこと、例えば悩み事や考え方、人格にかかること、各個人の過去については決して話題に出さない。出したとしてもほんの少しで詳細に話はしない。ある時、観察していたグループの人にこんなことを聞いてみた。「友人のM君の過去についてどんなことを知ってるか。」と。彼は同じグループのメ

しない。だが僕は他人にそう思われたとしても、どうしても知りたいと思うし、また僕をおかしな奴だと思う人に知り得たことを伝えたいと思う。大学時代の友達づくり合いはどんなものか、親密さはどの程度なのかを知ることができ少しあためになるだろうから。  
さて、彼らの親密度を見るには野鳥観察ならぬ人間観察が最も分かり易い。但し双眼鏡や盗聴器は必要とせず、はるか遠くまで見通せる千里眼と十キロメートル先の音を聞き分けられる異常聴覚、更には人の心の奥深くまで見透せる心眼があれば言うことはない！冗談である。  
普通の人間にそのような不思議な力などある訳がない。といふことで、普通の人間である僕はまず講義のある日のグループの様子を観察することにした。さすがに全てのグループをまんべんなく観察するのは難しいから、二、三興味をもつたグループを集中的に観察することにした。  
まず、いつも僕が座っている席の近辺にグループをつくっている人を見てみた。一限目の講義が始まると前は、まだ一人二人とまばらであったが、講義の始まる直前になると一気に四・五人が教室に入ってきて、先に来ていた人のそばの席に座る。先生が来るまで彼らはおしゃべりをしている。先生が入って来ると、とたんにおしゃべりをやめ、静かになる。丁度そのグループの後ろに彼らほど人數は多くないが、一つの集団がある。前の席のグループと同じく静かに先生の話を聴いていた。そこ

ンバーであるM君の過去について知っていることを話してくれた。一言断つておくが、僕は決してM君について調べようとしたのではなく、M君と同じグループのメンバーがM君についてどれくらい知っているのかを調べるために聞いたのである。メンバーの一人が話してくれた内容は省くが、案の定M君の過去についてそのメンバーは詳しくは知らない。学生同士の人間関係はグループ毎に結束はしているもの、どこか希薄なものである。これが果たして正しいのか間違っているのか僕は分からぬが、下手な詮索をして相手の心を傷つけたくないからお互いほどほどつき合いを楽しもう、という気持ち

する。



## 「例の話」

一年 高田直子

冬休みに入る前に友人M.Kから「例の話」について書いて欲しいと頼まれた。

「例の話」とは十二月一日にニホンカモシカに会いに奥多摩まで友人Y.Tと出かけた事である。奥多摩の朝は寒い。空が高く、空気が清涼である。思わず深呼吸をしてみる。とても気持ちが良い。ボランティアスタッフが何人か駅付近で待機していた。私達は名前を言い出席を取りつからバスで奥多摩の山奥に入つて行った。途中からスタッフが車でさらに山奥へ私達を連れて行つてくれた。車の中からニホンカモシカが居ないかどうか山の裸地を凝視していた。残念ながら私達は見つける事ができなかつたが、「他のグループの人がニホンカモシカを見た。」と言う話が出て、私は何だか無性に敗北を感じた。車から降りるとスタッフが今日の予定と、ニホンカモシカについての説明を軽くしてくれた。また、意外にも奥多摩には多くの野生動物が生息している事を聞き驚いた。大型動物では熊などもいるそうだ。今回は時期的にも悔しくも会えなかつたが、また別の季節にやつて来たら会え

るかもしれない。10人ぐらいのグループに分かれて山を登つていくといろんな発見がある。私達はトランкиングを実行した。トランкиングとは糞や足跡などからどんな動物が生息しているのか推測する事である。私はこの時初めて人間と犬、猫以外の糞を見た。

木の実の種が消化されずそのまま糞に混ざっている小さな糞、これはイタチの糞である。比較的人間の糞の小さくしたような形をしている糞、これはサルの糞である。またカモシカの足跡も見た、思ったより小さかった。私が見たカモシカは世にも小さな動物であった。親指の爪程の大きさで、簡単につぶせてしまった。遠い向こう側の断壁に居たためとても小さく見えたのである。一同解散した後私達は軽い食事をした。Y.Tは山菜そばを私はレバニラを食べた。レバニラは寒さにこごえていた私の体を温めてくれて、その瞬間死んでも良いと思つた。食堂には林家こぶ平のサンイン帳が並べられていた。こぶ平は一体何を食べたのだろう。この寒い中、一生懸命に野生動物について語ってくれたボランティアの皆様の情熱に感動し、自然はやっぱりいいと実感し、帰りの電車の中ではカモシカの夢を見た。楽しくて寒くておいしい体験だった。

## 研究室だより

### 畜産物利用学研究室

本研究室は室長の山中良忠教授はじめ、高橋強囑託教授、古川徳助教授、松岡昭善助教授の4名の先生方の御指導のもとに、大学院生5名、4年次生30名、3年次生28名の室員がそれぞれ活発な活動を行つております。研究テーマは、大きく次の5つに分けられます。

- ◎卵の生理活性物質
- ◎加熱ショック乳酸菌のチーズ熟成への利用に関する研究
- ◎乳酸菌の酵素活性を利用した食品の保存法に関する研究
- ◎発酵乳製品の栄養生理学的研究
- ◎各種畜肉の種族特異的タンパク質の検索及び栄養成分の比較研究

また、加工利用では消費者に対して有効でよりソフトな食品の開発に取り組み、さらに加工所における実習を通じて製造設備、製造技術への理解を深めることにも努力しています。

その他の主な活動としては食品に関するゼミナール、新人室員歓迎会、乳酸飲料製造実習、模擬店（ロースハム、スマーカドチキン、プリン等の製造実習を通じて）への参加、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会などがあり、こうした行事には素晴らしい団結力を發揮し活動しています。

### 平成6年度卒業論文題目

番号	学籍	氏名	論文題目	教員指導員
f91 041	f91 039	f91 028	f91 007	f91 006
落合 美喜	荻野 俊之	越後 真一	新井 寿子	新井 崇
山中	山中	天野	古川	山中
松岡	松岡	松岡	古川	古川

平成7年度卒業論文題目																	
秋山 善則	HPLCによる肉種鑑別	電気泳動法による肉種鑑別	田中 克治	渡部 里奈	若月 哲也	吉田 菜穂	吉田 祥恵	吉田 菊子	高橋 高橋	古川 古川	高橋 高橋	吉田 吉田	高橋 高橋	吉田 吉田	吉田 吉田		
五十嵐直樹	平成7年度卒業論文題目	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡		
秋山 善則	電気泳動法による肉種鑑別	電気泳動法による肉種鑑別	田中 克治	渡部 里奈	若月 哲也	吉田 菜穂	吉田 祥恵	吉田 菊子	高橋 高橋	古川 古川	高橋 高橋	吉田 吉田	高橋 高橋	吉田 吉田	吉田 吉田		
五十嵐直樹	HPLCによる肉種鑑別	電気泳動法による肉種鑑別	田中 克治	渡部 里奈	若月 哲也	吉田 菜穂	吉田 祥恵	吉田 菊子	高橋 高橋	古川 古川	高橋 高橋	吉田 吉田	高橋 高橋	吉田 吉田	吉田 吉田		
平成7年度卒業論文題目																	
92 005	92 003	93 606	91 189	91 187	91 186	91 185	91 184	91 183	91 182	91 181	91 180	91 179	91 178	91 177	91 176		
92 044	92 043	92 041	92 037	92 032	92 028	92 013	92 006	91 169	91 167	91 160	91 159	91 146	91 129	91 123	91 116		
小沼 光一	尾崎 公彦	奥堂 朋子	大貫 伊作	大久保 淳	宇津木 一成	石渡 宏美	池田 昌弘	宮澤 智恵子	松森 光治	古川 古川	吉田 吉田	吉田 吉田	川崎 野口	沼野 野口	西尾 沼野		
組成	組成	及ぼす影響	組成	組成	組成	乳酸菌の $\beta$ -galacto sidase	かび酵素を利用するチーズ促進法の研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	グラム陰性菌に及ぼすリゾチーム糖複合体の影響	長谷川理加	高橋 高橋	高橋 高橋	宗浩 古川	正幸 古川	西尾 沼野		
91 046	91 047	91 048	91 049	91 050	91 051	91 052	91 053	91 054	91 055	91 056	91 057	91 058	91 059	91 060	91 061		
金子 清隆	狩野 雅幸	上舩 小百合	細羊ミオグロビンに対するモノクローナル抗体の作製	チーズ促熟用乳酸菌ペプチダーゼの研究	マウスの放射線障害に及ぼすチーズの影響	坂本 静香	須田 忠史	高梨 和幸	中澤 啓子	吉田 祥恵	吉田 菜穂	吉田 菊子	吉田 菊子	吉田 菊子	吉田 菊子	吉田 菊子	
水禽(青首種、バリケン種)の脂質組成に関する研究	水禽骨髓の脂肪酸組成に関する研究	綿羊ミオグロビンに対するモノクローナル抗体の作製	ノクローナル抗体の作製	チーズ促熟用乳酸菌ペプチダーゼの研究	マウスの放射線障害に及ぼすチーズの影響	チーズ並びに発酵乳の物性に及ぼす各種添加物の影響	電気泳動法による肉種鑑別	硫安分画した卵黄画分の脂質並びに糖組成に関する研究	キラー細胞の活性化に及ぼすケフィールの影響	各種添加物による生クリームの物性改善に関する研究	ナイシン生産乳酸菌の食品保藏への利用	腸内乳酸菌の $\beta$ -ガラクトシターゼ活性に関する研究	チーズプロテアーゼ活性による肉種鑑別	チーズ並びに発酵乳の物性に及ぼす各種添加物の影響	チーズ並びに発酵乳の物性に及ぼす各種添加物の影響	チーズ並びに発酵乳の物性に及ぼす各種添加物の影響	
松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	
91 121	91 122	91 123	91 124	91 125	91 126	91 127	91 128	91 129	91 130	91 131	91 132	91 133	91 134	91 135	91 136	91 137	
沼野 雅人	水禽(ペキン種、カーキヤムベル種)の脂質組成に関する研究	逆相HPLCによる肉種鑑別	長谷川理加	LJP-システム活性化用乳酸菌に関する研究	ケフィール粒由来乳酸菌の利用	乳酸菌の共生に関する研究	尚	尚	尚	尚	尚	尚	尚	尚	尚	尚	
松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	松岡 松岡	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	高橋 高橋	
91 116	91 117	91 118	91 119	91 120	91 121	91 122	91 123	91 124	91 125	91 126	91 127	91 128	91 129	91 130	91 131	91 132	
カビ由来プロテアーゼを用いるチーズの促熟	水禽(ペキン種、カーキヤムベル種)の脂質組成に関する研究	逆相HPLCによる肉種鑑別	長谷川理加	LJP-システム活性化用乳酸菌に関する研究	ケフィール粒由来乳酸菌の利用	乳酸菌の共生に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究	ケフィール粒由来多糖の抗変異原性に関する研究

平成8年度卒業論文題目																				
古川	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古屋	松岡	
六戸	坂場	栗原	藏方	狩野	上杉	伊藤	毛利	望月	山田	村上	松本	直樹	高橋	高橋	高橋	高橋	細野	古屋	松岡	
葉子	直規	豊	泰子	知子	麻記	友能	大介	佳恵	真美	雅美	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	賢司	穂	山中	
肉の識別	等電点電気泳動法による鳥類	マウス細胞に及ぼす影響	<i>L. acidophilus</i> 培養物がマウス細胞に及ぼす効果	清酒粕添加ソーセージの製造に関する研究	筋漿タンパク質画分の電気泳動パターンによる肉種識別	ケフィール粒由来乳酸菌利用発酵ソーセージの製造条件の検討	チーズスプレッドの保存性に関する研究	清酒粕浸漬食肉製品の保存性に関する研究	ケフィール粒構成乳酸菌を用いた発酵ソーセージ熟成中のタンパク質分解	中温性乳酸菌のペプチダーゼ活性に関する研究	山羊乳を用いた乳酒の製造と特性に関する研究	粘質物産生乳酸菌の抗変異原性に関する研究	リゾチーム複合体の抗菌性に関する研究	マウス胸腺細胞に及ぼすバイエル板培養上澄液の影響	卵黄脂質画分がマウス腹腔内マクロファージのH <sub>2</sub> O <sub>2</sub> 産生に及ぼす影響	奈良井陽子	奈良美環子	堂本 竜太	柴田 憲一	唐沢 裕充
市川伊豆美	エゾシカ肉の理化学的性状	馬肉に特異的なモノクローナル抗体の作成	カビ発酵ドライソーセージ製造に関する基礎的研究	中村亜希子	森 美由紀	伊藤明日香	平井 真美	半田 典久	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	高橋	松葉 史司	細野 賢司	
伊藤 友絵	濃縮乳からのチーズ製造に関する研究	電気泳動法による肉種鑑別	馬肉に特異的なモノクローナル抗体の作成	荒川 泰史	飯島 和輔	飯塚 一英	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	高橋	松岡	古屋 穂	
古川	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	山中	
松岡	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古川	古屋 穂	山中	

城田 豊仁	馬肉に特異的なモノクローナル抗体の作成	松岡
関口 智章	かび酵素を用いるチーズ促熟法の研究	古川
高橋 淳	味付け卵の保存に関する研究	山中
立石 研究	チーズの熟成指標に関する研究	高橋
高橋 淳	味付け卵の保存に関する研究	山中
田中 純	乳酸菌の投与がマウス臓器の過酸化物価に及ぼす影響	古川
橋本亜揮子	芳香生産性乳酸菌の利用に関する研究	高橋
本間 一隆	乳酸菌の「ガラクトシダーゼ活性化に関する研究	高橋
松本 英樹	マウス臓器のDNA損傷に及ぼす乳酸菌投与の効果	古川
三ツ中淳二	リゾチーム活性に及ぼす化学修飾の影響	古川
高橋 150	橋本亜揮子	古川
高橋 173	本間 一隆	高橋
高橋 186	松本 英樹	古川
高橋 191	三ツ中淳二	古川
望月 敦子	山羊乳中の抗菌性物質の検索	古川
村中 宏	乳中の固有抗菌因子に関する研究	高橋
村田 文子	ケフィール粒由来乳酸菌を用いたセミドライソーセージ抑制法に関する研究	高橋
宮良 高仁	乳酸の「ガラクトシダーゼ活性化に関する理学的研究	古川
宮入 里和	ケフィール粒由来乳酸菌を用いたセミドライソーセージに関する微生物学的研究	古川
高橋 192	高橋 193	高橋 194
高橋 193	高橋 198	高橋 193
高橋 194	高橋 199	高橋 193
高橋 195	高橋 200	高橋 193
高橋 196	高橋 201	高橋 193
高橋 197	高橋 202	高橋 193
高橋 198	高橋 203	高橋 193
高橋 199	高橋 204	高橋 193
高橋 200	高橋 205	高橋 193
高橋 201	高橋 206	高橋 193
高橋 202	高橋 207	高橋 193
高橋 203	高橋 208	高橋 193
高橋 204	高橋 209	高橋 193
高橋 205	高橋 210	高橋 193
高橋 206	高橋 211	高橋 193
高橋 207	高橋 212	高橋 193
高橋 208	高橋 213	高橋 193
高橋 209	高橋 214	高橋 193
高橋 210	高橋 215	高橋 193
高橋 211	高橋 216	高橋 193
高橋 212	高橋 217	高橋 193
高橋 213	高橋 218	高橋 193
高橋 214	高橋 219	高橋 193
高橋 215	高橋 220	高橋 193
高橋 216	高橋 221	高橋 193
高橋 217	高橋 222	高橋 193
高橋 218	高橋 223	高橋 193
高橋 219	高橋 224	高橋 193
高橋 220	高橋 225	高橋 193
高橋 221	高橋 226	高橋 193
高橋 222	高橋 227	高橋 193
高橋 223	高橋 228	高橋 193
高橋 224	高橋 229	高橋 193
高橋 225	高橋 230	高橋 193
高橋 226	高橋 231	高橋 193
高橋 227	高橋 232	高橋 193
高橋 228	高橋 233	高橋 193
高橋 229	高橋 234	高橋 193
高橋 230	高橋 235	高橋 193
高橋 231	高橋 236	高橋 193
高橋 232	高橋 237	高橋 193
高橋 233	高橋 238	高橋 193
高橋 234	高橋 239	高橋 193
高橋 235	高橋 240	高橋 193
高橋 236	高橋 241	高橋 193
高橋 237	高橋 242	高橋 193
高橋 238	高橋 243	高橋 193
高橋 239	高橋 244	高橋 193
高橋 240	高橋 245	高橋 193
高橋 241	高橋 246	高橋 193
高橋 242	高橋 247	高橋 193
高橋 243	高橋 248	高橋 193
高橋 244	高橋 249	高橋 193
高橋 245	高橋 250	高橋 193
高橋 246	高橋 251	高橋 193
高橋 247	高橋 252	高橋 193
高橋 248	高橋 253	高橋 193
高橋 249	高橋 254	高橋 193
高橋 250	高橋 255	高橋 193
高橋 251	高橋 256	高橋 193
高橋 252	高橋 257	高橋 193
高橋 253	高橋 258	高橋 193
高橋 254	高橋 259	高橋 193
高橋 255	高橋 260	高橋 193
高橋 256	高橋 261	高橋 193
高橋 257	高橋 262	高橋 193
高橋 258	高橋 263	高橋 193
高橋 259	高橋 264	高橋 193
高橋 260	高橋 265	高橋 193
高橋 261	高橋 266	高橋 193
高橋 262	高橋 267	高橋 193
高橋 263	高橋 268	高橋 193
高橋 264	高橋 269	高橋 193
高橋 265	高橋 270	高橋 193
高橋 266	高橋 271	高橋 193
高橋 267	高橋 272	高橋 193
高橋 268	高橋 273	高橋 193
高橋 269	高橋 274	高橋 193
高橋 270	高橋 275	高橋 193
高橋 271	高橋 276	高橋 193
高橋 272	高橋 277	高橋 193
高橋 273	高橋 278	高橋 193
高橋 274	高橋 279	高橋 193
高橋 275	高橋 280	高橋 193
高橋 276	高橋 281	高橋 193
高橋 277	高橋 282	高橋 193
高橋 278	高橋 283	高橋 193
高橋 279	高橋 284	高橋 193
高橋 280	高橋 285	高橋 193
高橋 281	高橋 286	高橋 193
高橋 282	高橋 287	高橋 193
高橋 283	高橋 288	高橋 193
高橋 284	高橋 289	高橋 193
高橋 285	高橋 290	高橋 193
高橋 286	高橋 291	高橋 193
高橋 287	高橋 292	高橋 193
高橋 288	高橋 293	高橋 193
高橋 289	高橋 294	高橋 193
高橋 290	高橋 295	高橋 193
高橋 291	高橋 296	高橋 193
高橋 292	高橋 297	高橋 193
高橋 293	高橋 298	高橋 193
高橋 294	高橋 299	高橋 193
高橋 295	高橋 300	高橋 193
高橋 296	高橋 301	高橋 193
高橋 297	高橋 302	高橋 193
高橋 298	高橋 303	高橋 193
高橋 299	高橋 304	高橋 193
高橋 300	高橋 305	高橋 193
高橋 301	高橋 306	高橋 193
高橋 302	高橋 307	高橋 193
高橋 303	高橋 308	高橋 193
高橋 304	高橋 309	高橋 193
高橋 305	高橋 310	高橋 193
高橋 306	高橋 311	高橋 193
高橋 307	高橋 312	高橋 193
高橋 308	高橋 313	高橋 193
高橋 309	高橋 314	高橋 193
高橋 310	高橋 315	高橋 193
高橋 311	高橋 316	高橋 193
高橋 312	高橋 317	高橋 193
高橋 313	高橋 318	高橋 193
高橋 314	高橋 319	高橋 193
高橋 315	高橋 320	高橋 193
高橋 316	高橋 321	高橋 193
高橋 317	高橋 322	高橋 193
高橋 318	高橋 323	高橋 193
高橋 319	高橋 324	高橋 193
高橋 320	高橋 325	高橋 193
高橋 321	高橋 326	高橋 193
高橋 322	高橋 327	高橋 193
高橋 323	高橋 328	高橋 193
高橋 324	高橋 329	高橋 193
高橋 325	高橋 330	高橋 193
高橋 326	高橋 331	高橋 193
高橋 327	高橋 332	高橋 193
高橋 328	高橋 333	高橋 193
高橋 329	高橋 334	高橋 193
高橋 330	高橋 335	高橋 193
高橋 331	高橋 336	高橋 193
高橋 332	高橋 337	高橋 193
高橋 333	高橋 338	高橋 193
高橋 334	高橋 339	高橋 193
高橋 335	高橋 340	高橋 193
高橋 336	高橋 341	高橋 193
高橋 337	高橋 342	高橋 193
高橋 338	高橋 343	高橋 193
高橋 339	高橋 344	高橋 193
高橋 340	高橋 345	高橋 193
高橋 341	高橋 346	高橋 193
高橋 342	高橋 347	高橋 193
高橋 343	高橋 348	高橋 193
高橋 344	高橋 349	高橋 193
高橋 345	高橋 350	高橋 193
高橋 346	高橋 351	高橋 193
高橋 347	高橋 352	高橋 193
高橋 348	高橋 353	高橋 193
高橋 349	高橋 354	高橋 193
高橋 350	高橋 355	高橋 193
高橋 351	高橋 356	高橋 193
高橋 352	高橋 357	高橋 193
高橋 353	高橋 358	高橋 193
高橋 354	高橋 359	高橋 193
高橋 355	高橋 360	高橋 193
高橋 356	高橋 361	高橋 193
高橋 357	高橋 362	高橋 193
高橋 358	高橋 363	高橋 193
高橋 359	高橋 364	高橋 193
高橋 360	高橋 365	高橋 193
高橋 361	高橋 366	高橋 193
高橋 362	高橋 367	高橋 193
高橋 363	高橋 368	高橋 193
高橋 364	高橋 369	高橋 193
高橋 365	高橋 370	高橋 193
高橋 366	高橋 371	高橋 193
高橋 367	高橋 372	高橋 193
高橋 368	高橋 373	高橋 193
高橋 369	高橋 374	高橋 193
高橋 370	高橋 375	高橋 193
高橋 371	高橋 376	高橋 193
高橋 372	高橋 377	高橋 193
高橋 373	高橋 378	高橋 193
高橋 374	高橋 379	高橋 193
高橋 375	高橋 380	高橋 193
高橋 376	高橋 381	高橋 193
高橋 377	高橋 382	高橋 193
高橋 378	高橋 383	高橋 193
高橋 379	高橋 384	高橋 193
高橋 380	高橋 385	高橋 193
高橋 381	高橋 386	高橋 193
高橋 382	高橋 387	高橋 193
高橋 383	高橋 388	高橋 193
高橋 384	高橋 389	高橋 193
高橋 385	高橋 390	高橋 193
高橋 386	高橋 391	高橋 193
高橋 387	高橋 392	高橋 193
高橋 388	高橋 393	高橋 193
高橋 389	高橋 394	高橋 193
高橋 390	高橋 395	高橋 193
高橋 391	高橋 396	高橋 193
高橋 392	高橋 397	高橋 193
高橋 393	高橋 398	高橋 193
高橋 394	高橋 399	高橋 193
高橋 395	高橋 400	高橋 193
高橋 396	高橋 401	高橋 193
高橋 397	高橋 402	高橋 193
高橋 398	高橋 403	高橋 193
高橋 399	高橋 404	高橋 193
高橋 400	高橋 405	高橋 193
高橋 401	高橋 406	高橋 193
高橋 402	高橋 407	高橋 193
高橋 403	高橋 408	高橋 193
高橋 404	高橋 409	高橋 193
高橋 405	高橋 410	高橋 193
高橋 406	高橋 411	高橋 193
高橋 407	高橋 412	高橋 193
高橋 408	高橋 413	高橋 193
高橋 409	高橋 414	高橋 193
高橋 410	高橋 415	高橋 193
高橋 411	高橋 416	高橋 193
高橋 412	高橋 417	高橋 193
高橋 413	高橋 418	高橋 193
高橋 414	高橋 419	高橋 193
高橋 415	高橋 420	高橋 193
高橋 416	高橋 421	高橋 193
高橋 417	高橋 422	高橋 193
高橋 418	高橋 423	高橋 193
高橋 419	高橋 424	高橋 193
高橋 420	高橋 425	高橋 193
高橋 421	高橋 426	高橋 193
高橋 422	高橋 427	高橋 193
高橋 423	高橋 428	高橋 193
高橋 424	高橋 429	高橋 193
高橋 425	高橋 430	高橋 193
高橋 426	高橋 431	高橋 193
高橋 427	高橋 432	高橋 193
高橋 428	高橋 433	高橋 193
高橋 429	高橋 434	高橋 193
高橋 430	高橋 435	高橋 193
高橋 431	高橋 436	高橋 193
高橋 432	高橋 437	高橋 193
高橋 433	高橋 438	高橋 193
高橋 434	高橋 439	高橋 193
高橋 435	高橋 440	高橋 193
高橋 436	高橋 441	高橋 193
高橋 437	高橋 442	高橋 193
高橋 438	高橋 443	高橋 193
高橋 439	高橋 444	高橋 193
高橋 440	高橋 445	高橋 193
高橋 441	高橋 446	高橋 193
高橋 442	高橋 447	高橋 193
高橋 443	高橋 448	高橋 193
高橋 444	高橋 449	高橋 193
高橋 445	高橋 450	高橋 193
高橋 446	高橋 451	高橋 193
高橋 447	高橋 452	高橋 193</

大本 栄治	環境温度がラットの消化率に及ぼす影響	91 035	亀岡
来代 滋	リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究	91 055	栗原
北村あかね	二番草の日内変動について	91 056	亀岡
佐々木 周	リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究	91 068	栗原
清水 恵	喰糞阻止が家兔の発育におよぼす影響	91 072	伊藤
高橋さやか	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 085	栗原
喰糞阻止が家兔の発育におよぼす影響	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 085	伊藤
富士畜産農場における適性牧草の選定に関する研究	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 085	栗原
利用2年目におけるイネ科牧草の刈取り回数が各酵素分画の含量及び推定DNに及ぼす影響	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 085	伊藤
大谷 栗原	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 099	寺田 武敏
亀岡 栗原	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 099	高橋 宏徳
中村 大	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 109	大谷 栗原
箱岩 知幸	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 127	亀岡 栗原
山崎 健悟	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 139	大谷 栗原
伊藤 亀岡	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 139	寺田 武敏
伊藤 大谷	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 139	高橋 宏徳
伊藤 亀岡	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 139	栗原
犬竹 やよい	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量に及ぼす影響	91 181	大谷 栗原
木下裕一郎	二番草の生育ステージがWSC含有量におよぼす影響	93 603	山崎 健悟
鈴木 伊藤	二番草の生育ステージがWSC含有量におよぼす影響	93 603	伊藤 亀岡
伊藤 亀岡	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量におよぼす影響	93 603	木下裕一郎
伊藤 亀岡	リードカナリーグラスのアルカロイド含有量におよぼす影響	93 603	鈴木 伊藤
成兔における飼料中タンパク質含量が消化率に及ぼす影響	リードカナリーグラスのサイレージ品質に関する研究	91 156	松田美智子
喰糞を阻止しない場合	添加剤の添加が刈取時期を異にしたサイレージの品質におよぼす影響	91 156	樹田麻記子
成兔における環境温度の違いが発育および消化率におよぼす影響	リードカナリーグラスのサイレージ品質に関する研究	91 158	松村 正浩
成兔における飼料中タンパク質含量が消化率に及ぼす影響	リードカナリーグラスのサイレージ品質に関する研究	91 165	宮里 康夫
喰糞を阻止した場合	添加剤の添加が刈取時期を異にしたサイレージの嗜好性におよぼす影響	91 177	柳沢 浩之
リードカナリーグラスの水溶性炭水化物(WSC)に関する研究	リードカナリーグラスの水溶性炭水化物(WSC)に関する研究	93 608	橋本 英明
一番草の日内変動について	リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究	93 608	栗原 亀岡

93 306	松山 宗源	リードカナリーグラスの水溶性炭水化物(WSC)に関する研究	亀岡 栗原
90 132	羽渕 芳則	日本から見た世界の畜産物の動向	伊藤 伊藤
89 086	谷前 英幸	Use of Silk Moth Larvae as Chick Feed : Amino Acids in Larvae Homogenates	杉村 杉村
90 104	丹沢 恒仁	昨年度評価済み	伊藤 伊藤
92 022	井野口和弘	平成7年度卒業論文題目	栗原 栗原
	リードカナリーグラスのサイロールペールラップサイレージ調製時における原料草の水分含量が化学的組成によぼす影響	栗原 大谷	大谷 大谷
92 022	小林 慎弥	富士畜産農場における適性牧草の選定に関する研究	栗原 栗原
92 064	小林 充	利用3年目におけるイネ科牧草の収量、化学的成分および各酵素分画の含量ならびに推定TDNについて	栗原 大谷
92 065	小林 豊	家畜糞尿脱臭装置の性能に関する研究 牛糞固体分分離後の尿槽内発酵ガスについて	栗原 大谷
92 066	今野 元文	喰糞阻止用首輪が幼兎の成長におよぼす影響	栗原 伊藤
92 069	下山 元幸	高温時における湿度の差が子豚の成長におよぼす影響	栗原 伊藤
92 078			
92 029	江原 聰	ウェットフィーディングに関する研究	伊藤 池田
92 030	戎谷 直敏	運動量がラットの体成分におよぼす影響	栗原 栗原
92 056	菊地 孝	リードカナリーグラスのアルカロイドに関する研究	栗原 栗原
92 058	木村 茂雄	日射量とアルカロイド含有量の関係	伊藤 伊藤
92 063	児玉 隆	成兔における給与飼料原料の違いが消化率におよぼす研究 喰糞を阻止しない場合	伊藤 伊藤
92 079	白井 一識	成兔における給与飼料原料の違いが消化率におよぼす影響 喰糞を阻止した場合	伊藤 伊藤
92 082	鈴木 篤	ウエットフィードイングに関する研究 夏季における摂取飼料温度が採食性におよぼす影響	伊藤 池田
92 110	敦賀 一俊	ウエットフィードイングに関する研究 夏季における摂取飼料温度が採食性におよぼす影響	伊藤 伊藤
92 113	福田 一岳	哺乳豚の乳つき順位と離乳時体重の関係	伊藤 伊藤
92 116	中久保孝徳	FEEDS AND FEEDING (F. B. Morrison著) の養豚関係の章(XXXIV章、XXV章、XXXVI章)の翻訳	伊藤 池田
92 128	西村 直樹	家畜糞尿脱臭装置の性能に関する研究 豚・鶏混合糞の堆積発酵ガスについて	栗原 大谷



畜産共通研究室

講師の指導陣と、3年生24名で構成されております。平成8年度にスタートしたばかりで、研究室としての実績も充実した設備もありませんが、教師・生徒共に、力を合わせ研究に取り組んでいます。

現3年生の研究テーマは、クマ、シカ、モグラ、ネズミ、コウモリなど始め、動物園における飼育環境について研究を行っている者もおります。

研究室全体のテーマが哺乳類の生態、分類及び保護に関する研究となっており、大変広い分野をカバーしております。本人の能力や、興味により、多様な研究テーマを探し出すことができます。

私達の研究が、野生動物の置かれている現状の改善に役立つ事を目標に今後も努力していきたいと思います。

## 家畜育種学研究室

家畜育種学とは、動物の進化の方向を、人間の必要とする方向に変更し、促進するための学問体系です。家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、血清学、分子生物学的見地から広範囲にわたり研究活動が実施されています。

当研究室では、田中一栄教授をはじめ、天野卓教授の指導の下に野村助手、古郡実験助手、大学院生7名、大学院研究生1名、4年生28名、3年生19名で構成され、室員各自の自觉と互いの協力により、それぞれの目標に向って頑張っています。主なテーマとしては電気泳動による血液蛋白型の研究・モノクローナル抗体を用いた赤血球抗原型に関する研究・組織適合性抗原遺伝子のDNA解析が行なわれています。

研究室での日常の活動としては、実験動物の飼養管理による家畜との接触、毎週行われるゼミ、定例室員会、卒論等の研究、実験における問題点を解決するために討論されています。更に、研究活動は学内だけに止まらず、先生方は、学会や研究のため、海外に出張されたり、また、学生も他大学、他の研究機関に出向き研究を行なっています。

研究室における年間の主な行事としては新入生歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会

などがあります。  
なお、平成6～8年度の卒業論文の題目は次の通りです。

### 平成6年度卒業論文題目

番号	学籍 氏名	論文題目	指導員
#91022	井上 武亮	日本沿岸における造礁サンゴの分布に関する一考察	天野
#91023	猪谷佐恵子	Lemur catta と Lemur macacoにおける育児行動の比較研究	平井
#91030	大塚 隆博	牛群検定成績からみた長野県東信地方のホルスタイン種の産乳能力について	田中
#91053	岸 大祐	我国の夏期条件下でのホロホロチョウ(Namida meleagris L.)の産卵と飼料摂取量	平井
#91059	桑原 淳	血液蛋白型支配遺伝子から見た黒毛和種系統間の遺伝的差異に関する研究	田中
#91074	杉村 祐輔	家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究	天野
#91077	鈴木 直美	ヤギの血液型に関する研究	天野
#91082	高木 元子	ヤギMHC class II DRB-TM領域の塩基配列に関する研究	天野
#91084	高橋 鏡子	家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究	天野
#91118	西山 建司	ウシ血液型の亜型抗原に関する免疫遺伝学的研究	天野
#91120	西澤 里美	スイギュウの血液型に関する研究	天野

91 130	服部 克之	メンヨウ血液型判定用モノクローナル抗体の作製に関する研究	天野	村上 泉	ウシ MHC class II 領域の遺伝学的研究	天野
91 133	原田 直子	MHC class II 領域を固定したヤギ系統の免疫応答に関する研究	天野	山口 佳奈	ウマの血液型に関する研究	天野
91 135	馬場 珠美	MHC class II 領域を固定したヤギの系統作出に関する研究	天野	中平 光洋	土佐褐毛和種の成立と今後に 関する育種学的考察	天野
91 149	細野 知彦	ヤギ MHC class II DIB – T1M 領域の塩基配列に関する研究	天野	赤星 友子	ウシ赤血球膜の免疫科学的研究	天野
91 150	本多 宣仁	血液蛋白多型による中国系豚の遺伝的分析	天野	石井 俊也	ウシ MHC class II 遺伝子の PCR – RFLP 法による多型解析	天野
91 155	松崎裕美子	ヤギ MHC class II DRB3 領域の多型に関する研究	天野		– 特に黒毛和種とバリウシについて –	
91 161	三浦 雅史	血液蛋白型支配遺伝子から見たウシの系統分化に関する遺伝学的研究	天野			
92 015	井出 諭志	ヤギ MHC class II 遺伝子の PCR – RFLP 法による多型解析	天野			
92 016	糸井 幸子	– 特に日本ザーネン種について –	天野			
92 023	岩原 慶典	家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究	天野			
92 024	岩本栄三郎	– グルタミン合成酵素を組み込んだチャイニーズハムスター卵巣由来 (CHO) 細胞のアンモニア除去の強化について –	天野			
92 036	大塚ひかり	モノクローナル抗体によるスイギュウの血液に関する研究	天野			
92 046	尾花 健作	イノシシ頭蓋骨の計量学的研究	田中			
92 053	千場あかね	スイギュウ MHC class II 遺伝子の PCR – RFLP 法による多型解析	天野			
92 073	沢田 美穂	– 特にフィリピン、タイワンおよびオキナワスイギュウについて –	天野			
92 081	杉山 武史	モノクローナル抗体によるヤギの血液型に関する研究	天野			
92 086	鈴木 千絵	スイギュウ MHC class II 遺伝子の PCR – RFLP 法による多型解析	天野			
		– 特にタイ、インドネシアおよびバングラディッシュのスイギュウについて –	田中			
		PCR 法による Lemur 類の DNA 増幅に関する基礎的研究	平井			

93-045	93-039	93-016	平成8年度卒業論文題目	91-130	95-351	92-195	92-186	山口 民 ウシ血液型抗原の免疫化学的研究	天野 天野	92-146	藤野 真之 家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究	天野 天野	92-143	深澤 登志 MHC class II遺伝子と固定したヤギの実験動物に関する実験	天野 天野	92-129	西村裕二郎 モノクローナル抗体によるウシの血液型に関する研究	天野 天野	92-101	田中 ゆか ヤギMHC class II遺伝子とその免疫応答に関する研究	天野 天野	92-095	高橋 晃一 モノクローナル抗体によるウマの血液型に関する研究	天野 天野	92-092	高島 美樹 牛床構造の違いが肥育牛の行動および増体におよぼす影響	佐藤 天野			
奥富 久恵	大羽 将裕	泉原加奈子	電子顕微鏡によるウシ赤血球の形態学的研究	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP法による多型解析	天野	PCR - RFLP法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野	ウシ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野						
家畜における伝達性海綿状脳症についての現状報告	93-075	93-067	93-066	93-060	93-051	93-046	小野 敏光 Fas - ligandの機能とその開発	天野 天野	スイギュウ MHC class II遺伝子の PCR - RFLP 法による多型解析	天野 天野	マウス生殖系列細胞における H19 遺伝子のメチル化パターンの解析	田中 河野	水牛赤血球膜抗原に関する免疫遺伝学的研究	天野 天野	ヤギ MHC-class II 遺伝子の多型解析	天野	家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究	天野	セルロースマイクロキャリアを用いた肝細胞初代培養の最適条件の検討	天野	微量サンプルおよび保存血液からのDNA増幅に関する研究	天野 天野	微量サンプルおよび保存血液からのDNA増幅に関する研究	天野 天野	微量サンプルおよび保存血液からのDNA増幅に関する研究	天野 天野	微量サンプルおよび保存血液からのDNA増幅に関する研究	天野 天野	微量サンプルおよび保存血液からのDNA増幅に関する研究	天野 天野
93-045	93-039	93-016	平成8年度卒業論文題目	91-130	95-351	92-195	92-186	山口 民 ウシ血液型抗原の免疫化学的研究	天野 天野	92-146	藤野 真之 家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究	天野 天野	92-143	深澤 登志 MHC class II遺伝子と固定したヤギの実験動物に関する実験	天野 天野	92-129	西村裕二郎 モノクローナル抗体によるウシの血液型に関する研究	天野 天野	92-101	田中 ゆか ヤギMHC class II遺伝子とその免疫応答に関する研究	天野 天野	92-095	高橋 晃一 モノクローナル抗体によるウマの血液型に関する研究	天野 天野	92-092	高島 美樹 牛床構造の違いが肥育牛の行動および増体におよぼす影響	佐藤 天野			

f93  
085

佐々木寛之

ウシ赤血球膜タンパク質に関する研究

f93  
105

天野  
てー

杉山 晶子

天野

スイギュウ血液蛋白型支配遺伝子に関する研究

—特にProtein4・2の遺伝的変異について—

f93  
089

佐藤 正志

電子顕微鏡による緬山羊赤血球の形態学的研究

f93  
110

天野  
天野  
関根やわらび

ヤギ赤血球抗原に関する免疫遺伝学的研究

f93  
090

塩沢 好和

ウシ血液蛋白型支配遺伝子に関する研究

f93  
115

天野  
天野  
高橋 幸水

MHC class II遺伝子を固定したヤギ系統の遺伝的研究

f93  
091

重松 賢吾

ラクダの血液蛋白酵素型から見たラクダの系統遺伝学的研究

f93  
129

天野  
田中  
土谷 信男

微量サンプルからのDNA抽出に関する研究

f93  
100

島袋 傑介

核移植により作出したマウス単為発生胚の発生能の解析

f93  
156

田中  
原田 洋人

都市近郊における畜産公害の現状と状況

f93  
103

城間みなみ

家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究

f93  
174

天野  
本間 基司

胎盤脱落膜細胞株由来、NS細膜の產生する生理活性物質の分養、精製に関する研究

f93  
187

天野

天野  
河野

f93  
184

田中  
原田 洋人

都市近郊における畜産公害の現状と状況

f93  
180

池田 勇一

ウシMHC class II遺伝子のPCR-RFLP法による多型解析

f93  
184

天野  
松田 一郎

精巢セルトリーカー細胞におけるFasligandの発現とその役割

f93  
187

間庭 邦夫

ウシ赤血球膜タンパク質に関する免疫化学生的研究

f93  
187

天野  
天野

—特にBand3について—

f93  
187

森 淳

ウシ赤血球膜抗原に関する免疫遺伝学的研究

f93  
187

天野  
天野

—特にBand3について—

f93  
187

荻久保明香

ヤギの血液型抗原に対する免疫化学生的研究

f93  
187

天野  
天野

—特にバリウシについて—

f93  
187

高橋 笑美

ウシ赤血球抗原に関する免疫遺伝学的研究

f93  
187

天野  
天野

畜産経営学研究室

我が畜産経営学研究室は、酪農・肉牛・養豚・養鶏（主に採卵鶏）といつたいわゆる畜産業の経営経済について様々な角度から調査・研究することを目的とし36年前につくられた研究室で、現在では新井肇教授、石岡宏司助教授の指導のもと、52名の大学院生、学部生がそれぞれの調査研究を行っています。学生たちの具体的な研究内容としては、「養豚農家のグループ経営」などの農家の経営形態に関するものや、「鶏卵の価格変動と消費者の購買意識調査」などの畜産物の流通に関するもと、牛、豚、鶏の経営経済に関する研究のみならず、「競争馬の血統配合」や「狂牛病とその背景」、「牧羊犬についての調査」といったそれ以外の畜の経営経済に関する研究まで研究範囲は広い分野にわたりっています。

また、学部3年生時には「農家実習」という実習があり、学生は夏休みの2週間畜産農家に泊り込み実習を行います。畜産業にあまり馴染みのない学生にとっては畜産の現場での作業や、現場での経営者との交流は大学内では得られない貴重な経験であり、畜産業に対する関心も今まで以上に高まるものだと思います。

畜産経営学研究室は堅苦しくない自由な雰囲気の研究室です。興味がある方はいつでも研究室の扉を叩いて下

さい。

平成6年度卒業論文題目

土田 雄一 稲作、野菜作複合経営の経営  
分析 石岡

松尾 智 牛肉の輸入自由化とその影響

—主として子牛、牛肉価格の

変動について—

番学籍 氏名 論文題目 教員指導

91040 尾崎 仁 牛肉輸入自由化が畜産業に与えた影響と対策 石岡

91153 峯岸 学 酪農経営における自給飼料の石岡

91163 石岡 牛肉の輸入自由化とその影響

—主として子牛、牛肉価格の

変動について—

91043 折原 仁美 農家婦人の農作業と生活時間 新井

91174 森 康之 わが国における熱帶魚の歴史 新井

91183 吉川 龍治 S P F豚の経済効果と今後の

課題 新井

91049 川江 啓 新規参入者の現状と就農条件 新井

91183 神野 陽子 動物福祉から見た家畜管理の新井

91183 新井 問題点

91057 久須美玲子 畜産農家における扱い手不足 新井

91183 石岡 採卵養鶏場における衛生管理 新井

91183 石岡 について

91076 鈴木 一俊 養豚公害とその対策—周辺住民の意識調査から— 新井

91183 吉田 誠 採卵養鶏場における衛生管理 新井

91183 石岀 問題点

91086 高橋 夏海 動物福祉と家畜管理基準 新井

91183 斎藤 久 わが家の酪農経営分析 新井

91183 石岡 問題点

91504 山崎 博 牛肉価格の流通段階での変動

について

平成7年度卒業論文題目

91098 堤 三希子 東京都島山興における畜産の

推移とその要因

91103 土志田和昌 採卵養鶏経営の規模別収益性

とその要因

91110 中村 智美 酪農ヘルパーの導入とその影

響

91113 中山 亮 ヤマギシズム農法の理念と実

践—鶏飼育と鶏卵供給を中心

に—

91119 西村 幸佳 ヤマギシズム養鶏法の研究

新井

91136 朴 鐘國 韓国の農村近化への近道

新井

91143 藤田 安彦 企業養豚の労働条件に関する

新井

91144 藤原 要析 調査—家族経営との比較検討—

新井

91144 藤原 要析 大規模採卵養鶏経営の事例分

石岡

91098 石岀

91098 石岡



93 004	芦原 淳	競走馬の血統及び配合について	石岡
93 032	大浦 一平	強い馬作りの条件 —競走馬の育成調教に関する調査—	石岡
93 077	西條 正巳	障害者乗馬の現状と将来性 —社会福祉における馬の効用	石岡
93 078	齊藤 元子	馬の社会的貢献性について —馬肉生産、流通を中心にして	石岡
93 171	堀口 晋吾	観光牧場の成立条件	石岡
93 190	水元 潔志	農産物の販売戦略とコンピュータネットワーク	石岡
93 611	渡辺 幸夫	家畜ふん尿の有効利用に関する調査	石岡
93 193	93 190	—牛ふん堆肥化の条件と方法について—	新井
93 151	長谷部 隆介	属の形態的変異の検討	新井
93 139	中林 建二	動物の福祉（アニマルウエルフェア）の現状と将来方向	新井
93 007	安藤 洋次	畜産経営における廃棄物有効利用の成立条件	新井
93 139	伊豆諸島におけるアカネズミ	吉行	
93 007	畜産経営における廃棄物有効利用の成立条件	新井	
91 025	今村かおり	平成6年度卒業論文題目	
91 015	磯部 香織	番学籍 氏名 論文題目 教導	
91 014	石塚 輝佳	ニワトリの成長に伴う各種臓器中及び赤血球中のカルノニンとアンセリン濃度の変動	渡邊
91 012	石川 智也	ニワトリ卵殻のクチクラ除去が胚の成長に及ぼす影響について	渡邊
91 014	石塚 輝佳	ニワトリの成長に伴う各種臓器中及び赤血球中のカルノニンとアンセリン濃度の変動	渡邊
91 015	磯部 香織	ウマ赤血球形態に及ぼす無機イオンの影響	渡邊
91 025	今村かおり	ニホンウズラの血清量高系統と低系統における経済形質及び生理的形質の系統間差異について	半澤

91 182	91 157	91 154	91 148	91 140	91 131	91 080	91 073	91 065	91 060	91 060	91 026
山下 智	松丸 尚孝	松木 文	星野 芳男	福井 正人	早川 治夫	菅原 健央	齋藤 義貞	斎藤 陸	小嶋 普輔	岩城 三保	岩城 牧人
運動負荷によるウマ血漿パブ トグロビンの変動に関する研 究	馬赤血球の遊離アミノ酸型及 び還元グルタチオン型の遺伝 様式の検索	馬赤血球の遊離アミノ酸型及 び還元グルタチオン型の遺伝 様式の検索	ハシブトガラスとハシボソガ ラスの血清アルブミン及び血 清プレアルブミンの多型に関 する研究	コロニーアッセイ法による培 養ウマ赤血球の形態並びに酵 素活性の変化に関する研究	PCR法を用いたニホンウズ ラの主要組織適合遺伝子複合 体(MHC) class I 遺伝子の 多型解析	コロニーアッセイ法による培 養ウマ赤血球形態の電子顕微 鏡的解析	2種のカラス(ハシブトガラ ス及びハシボソガラス)にお ける血清アミラーゼの多型に ついて	ウマ赤血球形態における各種 代謝産物の影響	ハシブトガラスとハシボソガ ラスにおける赤血球酵素及び ヘモグロビン多型に関する研 究	革光 In situ ハイブリダイ ゼーションによるウシ染色体 由来DNAライブラリーの特 異性の検討	ゼーションによるウシ染色体 由来DNAライブラリーの特 異性の検討
渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤
92 011		90 123	90 062	93 604	91 190	91 117	91 112	91 111	91 108	91 104	91 101
石川雄一郎	平成7年度卒業論文題目	新倉大次郎	倉掛 孝吉	飯田 礼三	和田 浩司	西尾 時枝	中屋雄一郎	中村 弥	中田 裕之	内藤 康明	遠山 牧人
ニホンウズラの骨格筋構成タ ンパク質の発生生理学的解析		ハーブの市場における出荷量 と消費動向	DNA フィンガープリント法 を用いたニホンウズラのゲノ ムDNA多型解析	ニホンウズラ血清 IgMH鎖の 単離並びに精製	ニホンウズラの核型文責並び にFISH法によるウズラ染色体 上のMHCの領域の検索	ウマ白血球抗原に対するポリ クローナル抗体の作製	ウマ赤血球の浸透圧脆弱性と 無機イオン透過性との関係 像に及ぼす影響	ウマ赤血球抗原に対するポリ クローナル抗体の作製	ニホンウズラの主要組織適合 遺伝子複合体(MHC) class I cDNAプローブを用いたサ ザンハイブリダイゼーション 解析	ニホンウズラの血液蛋白質型 並びに酵素多型の系統間差異 像解析並びにこれと毛質との 関係	ニホンウズラの血液蛋白質型 並びに酵素多型の系統間差異 像解析並びにこれと毛質との 関係
株化に関する研究											

91 037	91 020	94 609	94 608	94 602	92 156	92 151	92 035	92 026	92 025	92 020	92 014
小川 一樹	伊東 祐治	村山 佳之	舟島 直子	奥井 雅子	松下かおり	堀口 嘉子	大塚 暁子	内田 清彦	上原 田史	伊藤 泰子	市川 洋
渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤	渡邊 半澤
サラブレッドにおけるマイク サテライトDNA 多型の探索	ニホンウズラにおける血液諸 元の系統間差異	二ホンウズラにおけるマクロ ファージのマイトージエン刺 激による形態学的・免疫学的 解析	ニホンウズラの消化器官にお ける白血球の種類と分布	ニホンウズラの主要組織適合 遺伝子複合体 (MHC) class II 遺伝子の多型に関する研究 ウズラの mRNA の解析	ウマ母乳中免疫グロブリン量 の経時的変動に対する血清学 的研究	ウマ赤血球膜の脆 弱性並びに透過性に及ぼす影 響	ウマ赤血球形態の変化に及ぼ す乳酸の影響	ウマ赤血球形態の変化に及ぼ す乳酸の影響	In vitro にて培養成熟した ウマ末梢血由来赤血球系幹細 胞の光学顕微鏡的観察	In vitro にて成熟培養した ウマ末梢血由来赤血球系幹細 胞の光学顕微鏡的観察	日本肉牛生産現場における 技術的問題点と課題
止要因の解明 に関する研究	止要因の解明 に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	PCR 法によるニホンウズラ 主要組織適合遺伝子複合体 class I 遺伝子のマッピング に関する研究	

平成 8 年度卒業論文題目

平成 8 年度卒業論文題目

193 172	193 165	193 162	193 152	193 134	193 120	田中 史織	二ホンウズラの主要組織適合 遺伝子複合体 (MHC) class II 遺伝子における多型解析	小野山昌大 193 047
堀米 隆	藤井 亮	福澤 拓兒	浜口 有基	筒井 崇	友永 忍	二ホンウズラのT細胞に対する モノクローナル抗体の作製 及び被認識抗原の同定	後藤のぞみ 坂井 聖実	川口 澄江 193 059
茨城県鉢田町における家畜尿 処理方法と今後の課題	二ホンウズラの加齢に伴う胸 腺内細胞集団の変化	高温環境暴露における二ホン ウズラ肝細胞特異蛋白質の検 索	電気融合によるウシおよびマ ウスにおける4倍体胚の誘導 とその発生能	運動負荷時に伴う馬赤血球の 形態変化に対する光学顕微鏡 的及び電子顕微鏡的観察	二ホンウズラの主要組織適合 遺伝子複合体 (MHC) class I 遺伝子における多型解析	総合的試み	運動負荷がウマ末梢血中の白 血球ならびにγ-globulin量 に及ぼす影響	笠松 健 193 048
渡邊	半澤	渡邊	半澤	岩崎	渡邊	後藤のぞみ 坂井 聖実	高溫環境がニホンウズラに与 える影響 肝臓の組織的変化について	川口 澄江 193 071
渡邊	半澤	渡邊	半澤	渡邊	渡邊	総合的試み	総合的試み	倉田 淳二 193 076
193 608	193 604	193 193	193 182	193 179	193 113	島田孝太郎 島田 裕二 193 098	運動負荷時の血液中のpH並び に培養液中の血液中のpHが馬 赤血球膜の浸透圧脆弱性に及 ぼす影響	佐久間郁乃 193 084
松井 照枝	児玉 朋子	宮古 法和	松岡 正浩	松江亜希子 ウズラ血清中の正常抗ウサギ 赤血球凝集素価の特性並びに IgG濃度との相関	島田孝太郎 島田 裕二 193 094	In vitro にて成熟培養した ニホンウズラにおける高溫環 境暴露下特異的cDNAの検討	蛍光in situハイブリダイゼ ーションによるウシ(1/21) 転座染色体における微小フラ ゲメントの検討	酒井 結里 193 080
若齢牛の血清並びに分娩前後 母牛の血清及び乳汁中の甲状腺 ホルモン、レチノール、カロ テノイドの変動に関する研究	ウマの免疫臓器における細胞 表面抗原並びに免疫グロブリ ンに関する免疫組織化学的研 究	吉田 渡邊	吉田 渡邊	吉田 渡邊	島田孝太郎 島田 裕二 193 094	マイトイジエン刺激ウズラリ ンパ球の培養上清中産物の検 索	蛍光in situハイブリダイゼ ーションによるウシ(1/21) 転座染色体における微小フラ ゲメントの検討	岩崎 渡邊 193 080

f92  
040

荻原 利尚

牛乳中細胞含有量の変動に関する研究特に泌乳季節並びに乳期内変動について

渡邊

## 家畜繁殖学研究室

f92  
062

古池 寿浩

牛乳中体細胞含有数の変動要因に関する研究

渡邊

f92  
111

手塚 一佳

学校教育における動物飼育の実態とその教育的效果の調査

渡邊

f92  
111

手塚 一佳

学校教育における動物飼育の実態とその教育的效果の調査

渡邊

我が、家畜繁殖学研究室は、主任教授、百目鬼教授、田中教授、門司助教授、桑山講師の御指導のもと、大学院生4名、4年生30名（うち1名は、海外実習のため休学中）3年生28名で構成されています。当研究室では、室員各自が希望する家畜、家禽別に牛班、豚班、山羊班、鶏班の4つの班に別れ家畜、家禽の効率的な繁殖方法を追求し、日々研究を行っております。

- 精子または、卵子の凍結保存
- 繁殖行動に対する内分泌的要因
- 生殖リズムとそれに対するホルモン関与

研究室活動として、新入生歓迎会、前期納会、収穫祭参加（文化学術展）研究旅行、後期納会、卒論発表会、送別会等を行い、教員と学生の親睦を深め固い団結力で日々頑張っております。

## 平成6年度卒業論文題目

番号籍

氏名

論文題目

指導教員

岩瀧 協子

シバヤギの発情周期における内部生殖器及び発情徵候の観察

百目鬼

田中

f91  
004

阿部 全

CRLaaで培養した豚体外受精の発生

百目鬼

岩瀧 協子

シバヤギの発情周期における内部生殖器及び発情徵候の観察

百目鬼

田中

f91  
009

飯塚 智子

卵子成熟培地への卵胞液の添加が牛卵子の発生に及ぼす影響

百目鬼

田中

f91  
010

池田 哲郎

牛体外受精における精子濃度の検討

百目鬼

田中

f91  
011

石川 徹

岐阜地鶏の母鶏の繁殖周期における血漿コルチコステロン濃度の推移

百目鬼

田中

f91  
013

石田 慶子

豚体外受精における卵巣の保存時間と受精率の関係

百目鬼

田中

f91  
019

伊藤 秀徳

牛成熟卵子の凍結保存における媒精時間の差異が体外受精におよぼす影響

百目鬼

田中

f91  
029

大城 公輝

豚精巢上体の各部位より採取した精子による卵子の体外受精

百目鬼

田中

f91  
038

沖村 重雄

シバヤギの発情周期における唾液中プロジェステロン濃度の推移

百目鬼

田中

f91  
044

小高 祐佐

ホロホロチヨウのストレスに対する反応性

百目鬼

田中

f91  
061

斎東 寛

ウズラの精巢における松果体ホルモン受容体結合能の変化

百目鬼

田中

f91  
064

清水 貴史

ウズラ精巢間質細胞のin vitroにおけるテストステロン産生に及ぼすメラトニ

田中

f91  
066

誠

ウズラ精巢間質細胞のin

vitroにおけるテストステ

ロン

田中

トニンの影響

格

ホロホロチヨウの卵殻腺液  
のカルシウム濃度及びマグ  
ネシウム濃度

田中  
小川

f91  
089  
高橋 有希  
岐阜地鶏における抱卵から  
産卵再開始までの期間にお  
ける血漿コルチコステロン  
濃度の推移

田中

f91  
092  
田中 敦士  
牛における性腺刺激ホルモ  
ン放出ホルモン(GnRH)  
製剤の効率的利用に関する  
研究

門司  
百目鬼

内滞留時間について  
卵後の排卵時間と卵と卵管  
管上皮細胞が豚体外成熟  
する繁殖機能回復について  
卵子の体外受精に及ぼす影  
響

田中  
小川  
百目鬼

f91  
100  
田中 正樹  
大型ストロー法による豚精  
子の凍結保存

門司  
百目鬼

f91  
128  
田中 當眞  
長谷川晶子  
豚精液を用いたpercoll密  
度配遠心法における希釀液  
の検討

門司  
百目鬼  
門司  
百目鬼  
門司  
百目鬼

卵未成熟卵子の凍結保存に  
おける耐凍剤の比較検討  
豚精子の凍結保存における  
耐凍剤の比較検討

田中  
小川  
百目鬼

f91  
137  
檜垣 彰  
豚精子の凍結保存における  
耐凍剤の比較検討

門司  
百目鬼

平成7年度卒業論文題目

f92  
021  
井上 祐代  
ウシ体外受精胚の発生に及  
ぼすシスティアミンの効果

門司  
百目鬼

f92  
038  
大羽 紗子  
ウズラ精巣のアンドロジエ  
ン分泌に対するゴナドトロ  
ピンヒメラトニンの作用

田中  
門司  
百目鬼

f92  
049  
加藤 淳一  
豚未成熟卵子のガラス化保  
存における耐凍剤の比較検  
討

門司  
百目鬼

f92  
059  
清武 信彦  
牛未成熟卵子のガラス化保  
存における耐凍剤の比較検  
討

門司  
百目鬼

f92  
072  
佐々木孝文  
ウシ体外受精卵に対する発  
生培養液量の違いが受精卵  
の発生に及ぼす影響

門司  
百目鬼

f92  
074  
塩川 晶  
ウシ体外受精卵に対する発  
生培養液量の違いが受精卵  
の発生に及ぼす影響

門司  
百目鬼

f92  
086  
鈴木 雅美  
ヤギ精子の凍結保存融解後  
の運動能を高める添加剤の  
検討

門司  
百目鬼

f92  
087  
鈴木 龍一  
ミニチュア豚の発情周期に  
おける腔内粘液の電気抵抗  
値と唾液中プロジェステロ  
ン濃度の推移

門司  
百目鬼  
門司  
百目鬼

f92  
103  
鶴岡 紗子  
ホーメルカプトエタノール  
を用いたウシ体外受精胚の  
発生における培地の検討

田中  
門司  
百目鬼  
門司  
百目鬼

f92  
109  
那須井 雄  
ホロホロチョウの卵管発育  
に及ぼすエストロジエンの  
効果

小川  
田中  
門司  
百目鬼  
門司  
百目鬼

f92  
131  
野口 英雄  
外国産ハイブリット豚(ケ  
ンボロー)の繁殖能力につ  
いて

門司  
百目鬼



193 183	松下 由香	超音波画像診断装置を用いたシバヤギの卵巣周期および卵巣機能回復と血漿プロジエステロン濃度の推移	金子 悦史	雄シバヤギにおける血漿アンドロジエン投与の効果
193 169	堀 真一	富士畜産農場における乳牛の繁殖成績に関する基礎データの解析ならびに繁殖管理システムの検討	柏野 千穂	ホロホロチヨウの卵管発育に対するエストロジエン投与の効果
193 160	廣木 美智子	シバヤギの発情周期及び妊娠における腔垢像の推移	川井 泉歩	ウシにおける発育途上卵母細胞の体外発育培養法の検討
193 148	野田 昭彦	鶏における社会的順位性について	菊池 昭吾	シバヤギにおける分娩後の卵巣機能回復と血漿プロジエステロン濃度の推移
193 147	野上 裕子	セロトニンアンタゴニストの投与が育雛中の母鶏の血漿エストラジオール濃度に及ぼす影響	熊谷 美穂	ミニブタの発情周期における腔粘液の生理的諸性状と血中性ステロイドホルモンの変動
193 145	西村 美和子	ブタの体外受精における成達いが受精に及ぼす影響	小島 美穂子	シバヤギによる未成熟卵子のガラス化保存
193 147	野上 裕子	セロトニンアンタゴニストの投与が育雛中の母鶏の血漿エストラジオール濃度に及ぼす影響	百目鬼	ウシにおける未成熟卵子のガラス化保存
193 147	桑山 百目鬼	桑山 百目鬼	桑山 百目鬼	ウシ未成熟卵子の顕微授精後の卵子活性化処理方法の検討
193 147	桑山 百目鬼	桑山 百目鬼	桑山 百目鬼	ウシ未成熟卵子の凍結保存法の検討
193 133	門司 百目鬼	門司 百目鬼	門司 百目鬼	ブタ未成熟卵子の凍結保存法の検討
193 132	時田 明良	竹内 和美	平良 雅樹	ウシ未成熟卵子のガラス化保存
193 132	時田 明良	竹内 和美	杉本 雅紀	ウシ未成熟卵子の顕微授精後の卵子活性化処理方法の検討
193 117	桑山 百目鬼	桑山 百目鬼	百目鬼	ウシ未成熟卵子の活性化処理方法の検討
193 112	門司 百目鬼	門司 百目鬼	門司 百目鬼	ウシ未成熟卵子の活性化処理方法の検討
193 104	嶋田 奈央子	阪本 学	坂本 学	ブタ凍結精子の生存および頭帽の形態維持に対するフルクトオリゴ糖の効果
193 099	門司 百目鬼	門司 百目鬼	門司 百目鬼	ウシ未成熟卵子の顕微授精(卵胞腔内への精子注入条件)の検討
193 083	門司 百目鬼	門司 百目鬼	門司 百目鬼	ブタ凍結精子の生存および頭帽の形態維持に対するフルクトオリゴ糖の効果
192 122	長井 治子	吉岡 かな子	吉岡 秀之	岐阜地鶏母鶏の繁殖周期における受精率向上の試み
195 610	本橋 秀之	岐阜地鶏母鶏の繁殖周期における受精率向上の試み	田中 百目鬼	牛受精卵移植後のGnRHの血漿メラトニン濃度について
195 609	志塚 友利江	射出精子を用いたブタ体外受精時の媒精精子濃度の検討	田中 百目鬼	ウズラ精巢間質細胞によるアンドロジエン産生に対するメラトニンの効果
195 605	涌井 有利	雄ミニブタにおける血漿アンドロジエンの季節変動および精液性状の推移	桑山 百目鬼	
193 211	水野 芽衣	雌が卵巣機能に及ぼす影響	田中 百目鬼	
193 189	桑山 百目鬼	富士畜産農場における牛肉の繁殖成績に関する基礎データの検討	佐藤 百目鬼	

ータの解析ならびに繁殖管理システムの検討

び妊娠経過の観察

岐阜地鶏母鶏の繁殖周期における受精率向上の試み

## 家畜衛生学研究室

### 平成6年度卒業論文題目

番号籍	氏名	論文題目	指導員
#91 001	朝倉 康雄	豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察	渡邊忠男助教授
#91 005	雨宮 祥子	人用ボディーシャンプー剤が犬の皮膚に及ぼす影響	近江 鈴木
#91 008	飯田 洋子	歯垢の付着状況と給餌法の関連性について	近江 鈴木
#91 032	大根田和義	富士畜産農場飼養牛の内部寄生虫卵保有状況	佐藤 渡邊
#91 036	岡田 義清	Actinomyces (Eubacterium) suis の 16SrRNA	東 近江
#91 042	小山 貴洋	馬における獣医用ソノトロンの臨床的応用	近江
#91 044	片岡 瞳史	豚の肝白斑に関する研究	近江
#91 045	香取 郁子	豚の発育に伴う歯牙の顕微鏡的観察	鈴木 東
#91 048	國吉英一郎	豚の肝白斑に関する研究 —白斑肝から分離される細菌について—	鈴木 東
#91 051	河村 未佳	豚の肝白斑に関する研究 —白斑肝から分離される細菌について—	鈴木 斎藤
#91 058	渡邊 西脇	鶏用混合オイルアジュバントワクチンの検討	鈴木 東
#91 069	小藤田美智子	岩手県宮古近郊における肝蛭中間宿主の分布状況	近江 近江
#91 075	鈴木 聰	豚由来レンサ球菌の生物性状及び核酸相同性による同定	近江
#91 126	原田 安貴	人用ボディーシャンプー剤が犬の被毛に及ぼす影響	西脇 渡邊
#91 134	野村 和子	鶏用混合オイルアジュバントワクチンの検討 —鶏伝染性気管支炎に対する抗体応答—	西脇 渡邊
#91 124	平井 渡邊	レアの人口孵化に関する研究 —特に卵殻気孔数と孵化率との関係を中心として—	平井 渡邊
#91 122	中山 小夜子	豚由来のグラム陰性桿菌の生物学性状ならびに核酸相同性による同定	東 渡邊
#91 114	根本 直美	豚由来のActinomyces 属菌の核酸相同性による同定	東 渡邊
#91 096	塙田 達也	'Actinomycetoides'の遺伝学的研究	東 渡邊
#91 081	妹尾 牧子	雄性生殖器における避妊法の検討	近江

本研究室は、二号館から遠く離れひつそりと東門に寄り添って建つ三号館にその本拠を置き、近江弘明助教授、渡邊忠男助教授、鹿江雅光嘱託教授、東量三客員教授、各先生のご指導のもと、大学院生三名、四年生三十二名、三年生二十八名、一年生一名で構成されています。室員は各自で希望する家畜、家禽別に牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ各家畜、家禽の疾患に対する予防法および環境衛生などの研究を行っています。家畜衛生とは、「家畜、家禽の生命を脅かす種々の健康障害因子を除去および予防し、生命的の延長をはかり、かつ生産性の向上を目的とする」が、元來の家畜衛生のあり方であったが、最近では「動物の福祉」という観点から家の家畜衛生、または伴侶動物（俗に言うペット）の衛生管理法などの、家畜、家禽にとらわれない家畜衛生が加わってきています。

また、本学家畜診療所においても一般外来動物の診療を中心に行なっています。

その他の研究室活動は、年間行事として新入室員歓迎会、収穫祭参加、研修旅行、定例会などがあり、室員の親睦を深めまた、チームワークの向上に努め、各々が目標意識を持って、各自の研究および研究室活動を行っています。

191 151 増井 ようじ Clostridium novyi 野外分離株のマウス実験感染について

斎藤 ひとみ 岩手県宮古近郊における肝蛭メタケルカリアの分布状況について

191 164 宮川 雅子 中小動物における獣医用ソノトロンの臨床的応用

平成7年度卒業論文題目

191 166 宮崎 大二郎 山羊の血液性状に関する研究

赤星 宗昌 乗用馬の運動後における尿性状について

191 168 宮下 哲哉 寄生虫卵の培養に関する研究

五十嵐カオリ豚の肝白斑に関する研究・肝白斑の病理像について

191 171 茂垣 恵美 豚の肝白斑に関する研究

豚の肝白斑に関する研究・回虫の免疫学的検索

191 176 安富由利子 豚由来ブドウ球菌の核酸相同性による同定

肝白斑由来グラム陽性菌の生菌・特にブドウ球菌について

191 178 矢花 幸司 *Tonsillophilus*'s 16S rRNA

鶏体内消長と血中抗体の変動

191 179 塩谷 純子 *Salmonella Enteritidis* の

内部寄生虫卵の培養に関する研究・回虫の免疫学的検索

191 180 岸 孝典 豚の肝白斑に関する研究・肝白斑を有する豚から検出される寄生虫について

廐舍内外における内部寄生虫卵の検出状況

192 057 倉畠 英次 老齢犬における麻酔法の検討

豚由来の乳酸桿菌における生物性状について

192 060 金剛寺純子 海獸の血液学的研究・イルカの血液性状について

豚由来の乳酸桿菌における生物性状について

192 068 重田ちさと コンパニオン・アニマルの学習能力に関する研究

豚由来の乳酸桿菌における生物性状について

192 076 高橋 章哲 豚由来のグラム陽性菌の各種性状・特に *Actinomyces* 属菌について

豚由来の乳酸桿菌における生物性状について

192 079 高橋 昕 豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察

乗用馬の運動後における血液療法について

192 093 高橋 朋子 畜舎の衛生に関する研究・敷科利用豚舎における寄生虫の発生状況

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 096 滝沢 純 豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 098 近江 老齢犬の管理衛生に関する研究・運動量について

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 100 鈴木 鈴木 豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 104 田村 直美 中島由記子

*Tonsillophilus suis* の遺伝学的性状

192 108 中川 弥行

乗用馬の運動後における血液性状について

192 115 中村 大作

豚の疥癬症に関する研究・治療法について

192 119 増谷のぞみ 猫白血病ワクチン(C-34)の野外応用試験

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 121 真野 祥子 豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 155 近江 老齢犬の管理衛生に関する研究・運動量について

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 155 鈴木 鈴木 豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 155 高橋 昕 豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 155 高橋 朋子 畜舎の衛生に関する研究・敷科利用豚舎における寄生虫の発生状況

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 155 滝沢 純 豚の発育に伴う歯牙の肉眼的観察

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

192 098 近江 老齢犬の管理衛生に関する研究・運動量について

豚の肝白斑に関する研究・主に豚由来レンサ球菌の生物性状について

f92  
182

八木 理恵

豚の疥癬症に関する研究・診断法について

平成8年度卒業論文題目

近江

f92  
189

山田 晋也

人用ヘアーシャンプー剤が犬の被毛に及ぼす影響について

査

近江

f92  
194

山本 武則

豚の肝白斑由来のグラム陽性菌について・特に Genus Propionibacterium の分類学的研究

研究

近江

f92  
199

渡辺みき子

鶏ニューカッスル病抗体測定法に関する研究・HI 抗体と ELISA 抗体の相関性について

治療法について

近江

f92  
205

田村 勇治

鶏用混合オイルアジュバントワクチンの検討・ND及びIBに対する抗体応答

研究

近江

f92  
219

渡邊

東

治療法について

近江

f93  
029

渡邊

渡邊

研究

近江

f93  
033

渡邊

渡邊

治療法について

近江

f93  
038

大塚 健司

豚回虫卵人工感染豚の一般臨床所見について

研究

近江

f93  
040

岡田 剛士

山羊における外部寄生虫の駆除法について

研究

近江

f93  
053

金森 紹

豚の肝白斑から分離される細菌特にブドウ球菌属について

研究

近江

f93  
118

渡邊

渡邊

研究

近江

f93  
122

渡邊

渡邊

研究

近江

f93  
124

渡邊

渡邊

研究

近江

f93  
138

渡邊

渡邊

研究

近江

f93  
055

金子 哲也

各種培養細胞に対する鶏病ウイルスの増殖性について

研究

近江

f93  
061

渡邊

渡邊

研究

近江

f93  
064

城戸 幸

ホロホロ鳥由来培養細胞に対する鶏病ウイルスの増殖性について

研究

近江

f93  
065

木村 真澄

乗馬愛好者（中高年齢層）からみた馬の伴侶動物としての有用性について

研究

近江

f93  
073

小池 弥奈

乗馬爱好者（低年齢層）からみた馬の伴侶動物としての有用性について

研究

近江

f93  
097

渋川 友美

豚回虫卵人工感染モルモットの病理学的観察

研究

近江

f93  
111

曾我 祐子

豚の疥癬症に関する研究診断法について

鈴木

近江

f93  
097

渋川 友美

豚回虫卵人工感染モルモットの病理学的観察

研究

近江

特に P.acnes 菌群について

内部寄生虫の保有状況

吉田

内蔵（肝白斑）廃棄豚発生農家における衛生対策の実態調査

鈴木

安達 広通

豚回虫卵人工感染豚の臨床結果について

鈴木

石倉小百合

豚の疥癬症に関する研究

鈴木

豚の疥癬症に関する研究

鈴木

内間 正智

豚の疥癬症に関する研究

鈴木

健司

豚回虫卵人工感染豚の一般臨床所見について

鈴木

大熊 健司

豚回虫卵人工感染豚の一般臨床所見について

鈴木

山羊における外部寄生虫の駆除法について

鈴木

大塚 健司

山羊における外部寄生虫の駆除法について

鈴木

岡田 剛士

山羊における外部寄生虫の駆除法について

鈴木

金森 紹

犬の内部寄生虫に関する研究

鈴木

武田江梨花

Lemur 類の内部寄生虫に関する研究

鈴木

田中 裕子

豚の肝白斑から分離される細菌特にブドウ球菌属について

鈴木

渡邊

犬の内部寄生虫に関する研究

鈴木

原田 義夫	ホロホロ鳥に対する鶏用オイルワクチンの検討	渡邊	渡邊 慎哉	'Actinomycetessuis' 遺伝学	渡邊
福元 大	Lemur類の内部寄生虫に関する研究	近江	渡辺 恵	鶏病病原体に対するホロホロ鳥の感受性について	渡邊
細井 俊寿	Tonsillophilus suisの遺伝学的性状	近江	渡邊	ニホンジカの採食行動について	西脇
細山 剛	Anisakis simplex 4期及び5期虫体に関する形態学的研究	近江	吉行	内部寄生虫卵保有牛に対する駆除法の検討	西脇
増田 成男	富士畜産農場の肉牛における内部寄生虫卵の保有状況	近江	遠藤 由紀	古屋亞佐子 内部寄生虫卵保有牛に対する駆除法の検討	西脇
松岡 敏郎	豚の肝白斑に関する研究 肝白斑を有する豚から豚から検出される寄生虫について	近江 鈴木	渡辺	吉行	鶏病病原体に対するホロホロ鳥の感受性について
山本 和広	馬の内部寄生虫に関する研究 虫卵検出法について	近江	渡辺	渡辺 慎哉	'Actinomycetessuis' 遺伝学
増田 成男	富士畜産農場の肉牛における内部寄生虫卵の保有状況	近江	吉田 荻原	古屋亞佐子 内部寄生虫卵保有牛に対する駆除法の検討	西脇
松岡 敏郎	豚の肝白斑に関する研究 肝白斑を有する豚から豚から検出される寄生虫について	近江 鈴木	渡辺	吉田 荻原	'Actinomycetessuis' 遺伝学
山本 和広	馬の内部寄生虫に関する研究 虫卵検出法について	近江	吉田 荻原	吉田 荻原	'Actinomycetessuis' 遺伝学

### 収穫祭だより

## 三回の収穫祭を終えて

畜産学科四年 中谷 暢

さてゆく。その間にも会議など話し合いなどは多く、時には仲間達と議論をかわすこともあった。

確かに収穫祭準備中は普段仲の良い友人でもけっこう仲が悪くなる、終わればもとに戻るのだが、収穫祭中では批判などはしょっちゅう口にする。端から見ればちょっと恐い光景だ。

でも収穫祭が始まればあつという間に十一月四日のファイヤーストームになってしまふ。

宣伝隊隊長の増田の前を学科の提灯を持って進むと、自分も正式に統一一本部に入り、副統一委員長という役職につくことになった。この時には統一委員長の水野先輩を中心とする先輩方の指導や仲間達の協力もあって何とか無事に終わった。

自分が一〇二回、一〇三回、一〇四回と収穫祭に参加したがこの三回の収穫祭にはそれぞれの思い出がある。

一〇二回の時はまだ一年目で全く収穫祭のこともわからず、ただ闇雲に色々な部門で動きまわっていた様な気がする。この頃はまだ自分が役職につくことなど考えてもいなかった。

二年目の収穫祭である第一〇三回収穫祭に突入する前には自分も正式に統一一本部に入り、副統一委員長という役職につくことになった。この時には統一委員長の水野先輩を中心とする先輩方の指導や仲間達の協力もあって何とか無事に終わった。

自分として最後になった一〇四回の収穫祭はとにかく大変だった様な気がする。今までの立場とは全く違い、重要な役職になつたため最初から最後までプレッシャーがかかっていた様な気がする。仕事が遅いので良く百日鬼先生を始めとする諸先生方には御迷惑をかけっぱなしでした。しかし自分の考えとは裏腹にどんどん日にちは過

ぎてゆく。収穫祭に参加した三年間、畜産学科や他学科の色々な仲間が増え、色々な出来事もあった、喜び、怒り、哀しみ、楽しみ、そのひとつひとつ思い出が全て収穫祭で得た素晴らしい財産になつたのではないだろうか。

自分は周りに迷惑をかけてばかりいて畜産学科統一一本部委員長としては頼りなかつたと思う。しかし、自分の周りにいた仲間達がいたからこそ三年間収穫祭に関わってこれたのだろう。

これから収穫祭を創っていく後輩達に伝えておきたい。収穫祭に関わる事は楽しいが、大変だ、しかも統一委員長を継ぐ人は辛い事もあると思う（どの部門にだって辛い事はあるけど）。悩む事だつて多くの事だらう。だけど一人で悩んでは解決しない、仲間がいるのだから…

最後に畜産学科統一本部に御協力して下さいました諸先生方、O.B.、OGの先輩方、頼りない統一委員長を支えて頑張ってくれた同級生、後輩に心より感謝します。

## 宣伝隊に入つて得たもの

畜産学科四年 増田成男

私は、大学2年生の時に収穫祭の家畜苑をやりたくて入りました。しかし、気が付くと宣伝隊の副隊長になつており、その時は気が進みませんでした。しかし宣伝隊に入つて作業をやっていくにつれて楽しくなってきており、また、石岡さんという、話の分かる先輩の下についたことがとても良かったと思います。

気が付くと他学科の3年生、4年生とも気が合うようになり、宣伝隊に入つて良かったと思うようになりました。

共通神輿を作つていては、O.B.の方が差し入れをしてくれましたが、その差し入れの内容が、必ずバナナがあり、秋の夜風にはこたえるアイスクリーム、又は得体の知れない物（焦げたお汁粉の中にバナナ）等でした。これらを夜遅くに差し入れてもらつたのですが、必ず全

ができ、楽しい思い出が出来ました。

宣伝隊とは他部門より早く動き始め、一番最後まで働きますが、全くと言つていい程辛くはなく、楽しい事ばかりでした。又、他学科に友人が多く増え、学校内を歩いていても必ず誰かに会うほどになります。

私は宣伝隊に入つて嫌な思い出は全然なく、みんなで楽しくやつた思い出しかありません。しかもO.B.に連絡が入り、みんなといままで遊んでいます。

卒業後も私は宣伝隊で経験した事をバネにしていきました。

## 仲間

四年 德永伸英

農業高校を卒業してこの東京農業大学に入学し、自分の夢に向かって心機一転した気持ちで大学生活がスタートした。正直な話「自分は自分であり、他人なんかしらねーよ。好きにしてくれ」という気持ちであった。大学生は自分の好きな事をして、全てにおいてサークルのような感じだと思っていた。そのため、大学行事なんて高校と異なり好きな人がやればいいと感じていた。しかし、その気持ちはある人達と出会い逆転した。その人達は畜産学科を盛り上げ他学科に負けない団結力ある畜産学科を目標に収穫祭・体育祭・スポーツ大会と様々な学校行事を運営している団体「畜友会」であった。そもそも自分は、リーダーシップを取りたがる性分で自分の中で決めた運営方針は良かれ悪かれ貫き通す方であった。この大学行事に無気力な学生の中でも畜友会が眩しく見えた。その時から「やってやるぞ」という気持ちが徐々に湧いてきた。

畜友会に入り、期待に胸を膨らませ行事に参加・運営した。しかし、自分の想像をはるかに超えた結果だった。現代の学生像を見せつけられた気持ちであった。回りか

ら見た学校行事と実際に運営に携わつていかに学生にやる気を出させて参加させるかが最大の課題となつた。その課題の基に学年が経過し、大学3年についてに悩みはピクに達した。しかし、行事のたびに「仲間」に大いに助けられた。自分の学生生活・行事はこの仲間があつてこそ自分自身が行事や様々な困難に立ち向かうことができたと言える。この場を借りて、このかけがえのない仲間に一言お礼が言いたい。あえて自分がここで「親友」を「仲間」と書いているのは、深い意味はない。ただ、この呼び方が親しみ易く子供の時代から付き合ってきたような感じがする。この仲間は、自分は誇りを持って自慢できる。いざという時に自分の事は後回しにして、仲間にために全てを賭ける事ができる人間である。勿論、そち合つてこそ仲間といえる存在ができると確信している。

最後に、本当に農大で良かったと心から言える。勉学はともかく、人間として学ぶことが多くあった。様々な、地方・高校を出てきた者と心からわかつ合うことは何よりも大切な事であり、卒業後もこの仲間と生涯に渡り付き合つて行きたい。

自分のかけがえないものそれは、親でも女でもないそれは……ここであえて書くことでもないだろう。

## 前夜祭・特別企画をおえて

畜産学科四年 小野山 昌 大

前夜祭・特別企画（特・企）というのは、一言でいうと収穫祭でのステージの企画・進行を行う部門です。

他の部門でも同じですが、統一本部の仕事というのは、13学科全体で考えていく仕事と、各学科それぞれで対抗企画などを考えていくものの2つに分けられます。学科対抗企画には毎年恒例となっている、野外劇や美人コンテスト、のど自慢などあります。ですから、13学科の仕事と、学科内の仕事を同時にこなしていくには、特企委員だけではなく、畜産学科統一本部全体のまとまりが必要となってしまいます。そういう意味では、他の部門みんなの助けがあつたからこそ出来たことなのでとても感謝しています。こういうみんなの協力のおかげで、私が参加した103回と104回の収穫祭はともに総合準優勝という良い成績をもらうことができ、結果にもとども満足のいくものが得られました。また、収穫祭に参加することで他にも多くのものを得られました。収穫祭を通して畜産学科以外の多くの人と知り合い、友達ができたことです。13学科合同の特企会議では、4月から毎週会議を行い、意見をぶつけ合って共に悩み、励まし合ってきました。そこから得られた

友情、一つのことをやりとげた達成感をみんなと一緒に味わえたことは、これから的人生において私の財産になると思います。

また、収穫祭を振り返ると、反省点もあります。

統一本部というのは農友会と、いう組織に属し、予算をもらい、運営していく機関です。手続などの点で先生方との報告や相談がルーズな面があり、ご迷惑をおかけすことが多々ありました。このような反省点からも多くのこと学びました。近年、残念なことに収穫祭に参加する学生が減少しています。これから私達がやるべきことは、統一本部が収穫祭で何をしているのか、何をやろうとしているのかを多くの人に理解してもらい、興味をもってもらうことがあります。そして伝統ある収穫祭がさらに発展するように後輩のみなさんにはがんばってもらいたいで

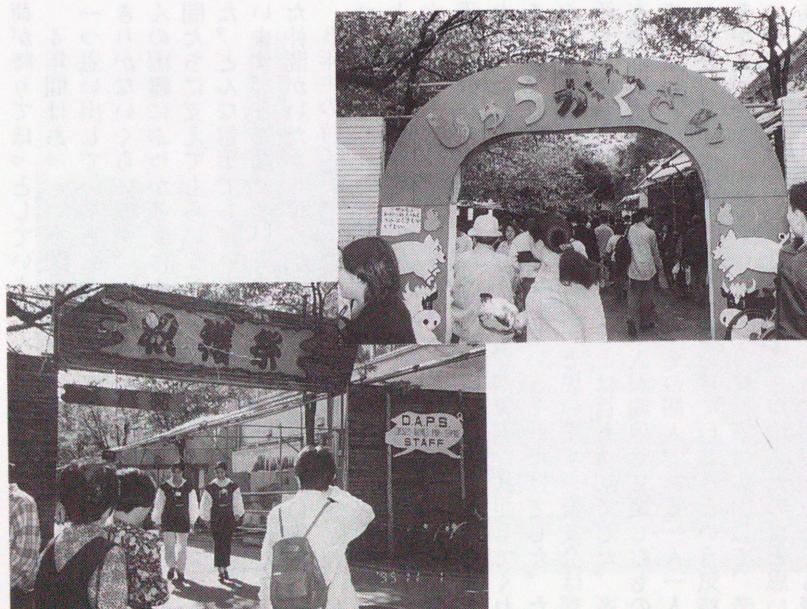
## 家畜苑

畜産学科四年 福永充哲

時間の流れははやいもので、あつという間の一ヶ月だった。毎日毎日が、勉学と収穫祭の準備とで大変だった。少し気をゆるめると、そのまま寝てしまうことも度々あった。この様な大変な時でも、良い思い出もある。

収穫祭期間、多くの人々が参加し、協力してくれて、大変うれしくして楽しかったことだ。夕方になると、どこからともなく集まり、夜中まで働いてくれた。休日出勤もあり、個人々々が大変いそがしいにもかかわらず、多くの人が集まってくれた。

私が委員長を務めさせていただいた家畜苑はそのような多くの参加者、協力者により支えられ、成功できたらと思う。そして、多くの人が楽しみ、収穫祭が盛大に終えることが出来たと考えております。



ればと考える。

## 本当の仲間に会えた

畜産学科四年 柴田紀子

畜産学科に入学してから、月並みな言葉ですが本当にあつという間の4年間でした。まだ、学内の右も左も解らぬうちに畜友会の会室へ行き、わけも分からぬまま行事に参加するようになってしまった。

毎年栗原先生に北門装飾の顧問をお願いしていたのですが、実際に自分が北門装飾委員長を行った時には、顧問のお願いに行くのが遅くなってしましました。私の一方的な勘違いによって起こった失敗であつたのも関わらず、栗原先生は快く顧問を引き受けくださいました。本当にありがとうございました。

4年生になって畜友会会計という役に付きました。そして研究室でも係に付いていました。自分が、2つの仕事を両立ができる程器用でないと解っていたので研究室での係を辞退させて頂くことになりました。その為に、一度決定したことを変更するということで研究室の方達にも大変な御迷惑をお掛けしてしまい、反省しています。

3年生、4年生と畜友会の会計補佐、会計を続けて来て、度重なる御迷惑を百目鬼先生、石岡先生にお掛けしていました。そして畜友会総会も終わり、ようやく肩の出来たんだ」と。そして、清家君にも胸を張って見てもらえるものが出来たと思います。一言で辛いと言つても周りの人はなかなか理解してもらえないと思います。肉体的に辛いと思ったことも何度もあります。それで嫌になることはありませんでした。精神的な面で、しかもプレッシャーが大きく押し掛かって来る事が何よりも辛いことでした。

しつこいようですが、色々な辛い事を今まで乗り越えてここまで来ることが出来たのは仲間がいたからです。辛い事をたくさん乗り越えて来たから、同じような思いをたくさんしてきたから仲間になれたんだと思います。どんなものよりも大切なものが見付けられました。支え合ひ、そして叱り合って本当の意味での仲間というものをこの4年間で手に入れることができたと思います。



- 71 -

荷が降りてほっとしています。

4年間はあつという間に過ぎてしましましたが、一つ思い出していくとあとあまりにも多くの出来事があつさきがないくらいです。色々な行事に参加して、たくさんの困難にぶつかる度に先輩や後輩、そして同学年の仲間たちに支えてもらいながらここまで來る事ができました。どんな言葉でも言い表すことが出来ない程感謝しています。どんなに辛い事でも、一緒に行事に参加して来た仲間がいたから乗り越えてこれたんだと思います。

3年生の時に事故で後輩の清家君が亡くなりました。いつも色々な話をしていました。将来のこととお稲穫祭のこともあります。どんなに辛い事でも、一緒に行事に参加して来た仲間がいたから乗り越えてこれたんだと思います。

ぶん皆もそういう気持ちだったと思います。畜友会は部活やサークルじゃないということは百も承知でした。畜友会は畜産学科の代表で、一個人が満足して楽しむものではないということ。でも、その個人である一人一人が集まって、一つのものを創りあげて行こうという気持ちがあつたからこそ、今まで色々な行事に参加して、辛い事にぶつかっても乗り越えることが出来たのだと思います。私は夏目さんと2人で創った北門装飾をとても誇りに思っています。「2人でもこんなに満足の行くものが

## 第一〇五回収穫祭

畜産学科三年 矢 部 剛 史

いが、収穫祭はとてもいい仲間を与えてくれたし、自分の宝になる思い出をくれました。

「東京農業大学農友会第一〇五回収穫祭畜産学科統一本部、本年度統一委員長を勤めさせて頂きます。畜産学科三年矢部剛史です。以後よろしくお願ひします。」この言葉を何回言つたことだろう。そのたびに自分が統一委員長をやっていることに疑問をもつていた。自分は、大勢の人をまとめる力もないし、一人で行動する方が好きな人間だからこんな大きな収穫祭を成功させる自信がなかった。だけど周りのみんなは違つていて、収穫祭を楽しむ準備を楽しんでいた。自分も一・二年の時は統一委員長みたいな責任はなくて楽しんでいた。統一委員長になるのを難しく考えていた自分は初心に戻り、収穫祭を楽しむ事にした。この考え方は思ったより良い方向に向いた。自分も楽しんで周りも楽しんで収穫祭の準備ができた。こんな自分で仲間といっしょに過す時間はとてもいいものになっていた。準備中の一ヶ月間はとても濃い時間で学生にしかできない時間だった。これは学生でいる自分の疑問を打ち砕いてくれた。学生でいて一生懸命できる事を与えてくれた収穫祭は自分にとって、とてもプラスになつた。文才がない自分にはこんな短い文しか書けないが、収穫祭はとてもいい仲間を与えてくれたし、自分



## 体育祭（小林瑞樹とそのおまけたち）

畜産学科三年 小 林 瑞 樹

今年の畜産学科は、勢いがあつて活気があつてもいい状態で収穫祭を向かえることができました。

私は学内スポーツ大会から畜友会に入ったわけですが、6月に終わってテストがあり、夏休みに入りもう体育祭ですから全然時間がなくて進め方もわからなくて様々な人に迷惑をかけました。しかし、各研究室の人や、二年男子などやる気のある奴らおかげで応援合戦は成功だつたと思います。成績は4位タイという結果に終わりました。私達は一位をとることしか頭になかったので少しショックはありました。4位タイでも立派な順位だし、自分達の中では納得できだし、とてもすばらしい物が完成したと思います。今でも体育祭（応援合戦）に出てくれた人達は援技できると思うし、もう当分忘れる事はないと思います。連日連夜少なくとも3時間多くて8時間練習した事もありました。大学に入つて何かにうちこむ事を忘れていた俺達にはそんな苦痛がなぜか新鮮に、そして楽しく思えたのです。何かに向かって全員で一丸となつて目標を達成することの難しさが私達を成長させてくれました。私達畜産学科は体育祭において不利な点が

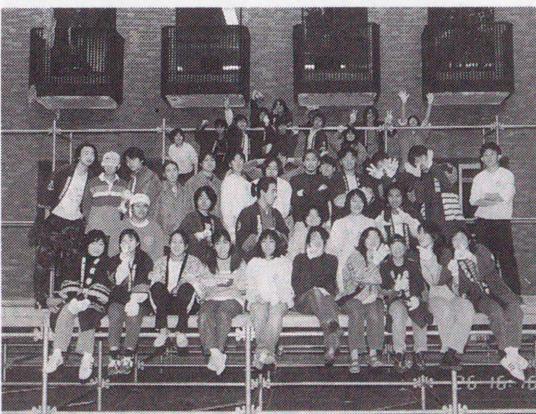
数多くあります。一つは人数が少ない事、それは他学科にはない、家畜苑や北門装飾などがあるためです。この時点では畜友会のメンバーのほとんどが消えてしまっています。そして二つ目は畜産学科が全員研究室に入らなければいけないので手を貸してくれる人も大変だと思います。特に今年は人手不足で当日も人が足らずに大変でした。結局総合で7位という結果に終わりましたが、来年は今年以上の事をやれば、入賞できるところまできているので、栗山君を中心に頑張って下さい。今年のメンバーは最高だったと思います。本当にみんなが納得できる成績だったとは思いませんが、全員が一つになって何かに向かって進んでいくということの大切さがわかつた気がします。最後にこの場を借りて、桑山先生、祐森先生をはじめとする諸先生方、各研究室員のみなさん、OB、OGのみなさん、手伝ってくれたみなさんにありがとうございました。

## 特別企画委員長を終えて

畜産学科三年 宇佐見 鈴子

前夜祭特別企画とは、中庭のステージで美人コンテスト、ミス農大、のど自慢、野外劇などを企画し、進行、運営していくもので、収穫祭の代表的なイベントの1つです。そんな大きな部門の委員長に畜産学科の代表として私なんかがなってよいもののかと初めはものすごいプレッシャーでした。2年の収穫祭の途中から参加した私は特別企画の仕事がどんなものなのかもよくわかつておらず、ただただ、とまどう一方でした。そんな中で毎週一回の会議が始まりました。どの学科の委員長も責任感が強く、企画という仕事をとても楽しんでいました。そんな委員長達にかこまれ、重い気持ちだった私も、特別企画に対する気持ちが変わっていきました。でも、畜産は何か他の学科と違っていて、他の学科が入り込めないような雰囲気がありました。それは自分の学科に対する高いプライドからくる熱気だったと思います。他の学科よりも多くの仕事をこなさなければならぬ畜産。3年生の少なヶ月間のつらい作業。みんな自分の仕事が精一杯で、意

A black and white group photograph of a large student organization, likely the Animal Science Club, posing on a stage or platform. They are arranged in several rows, with some standing on the back rows and others sitting or kneeling in the front. The background shows a building with large windows and a dark sky above.



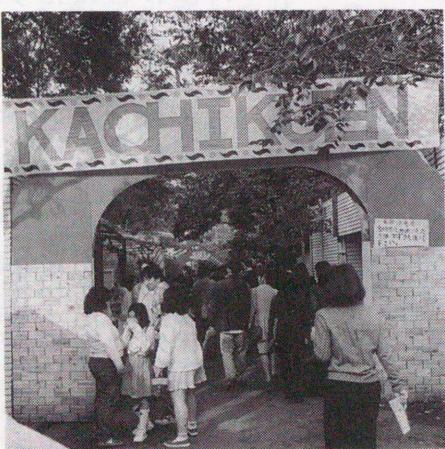
- 74 -

家畜苑、いつまでも

畜産学科三年 熊谷宗矩

今年の家畜苑のテーマは「子供向けの苑内」ということで、牛舎のバッくボードやアーチ、苑内のボードなど、すべて明るくメルヘンチックに作成しました。なぜ子供向けかというと世田谷の真ん中で、家畜と触れ合い少しでも家畜へ興味をもってもらえればという願いからです。本格的な作業は十月から始めました。毎日夜遅くまで作業し、少人数の中よくあそこまで作ったものだ、と思わず感心しました。今年は3年生は2人しかおらず、後輩にはその分大変苦労をかけましたが、嫌な顔一つ見せず、がんばってくれました。

収穫祭期間中には、搾乳体験コースやヒヨコとの触れ合い、紙芝居、水牛に乗ろうなど多くのイベントを用意しました。しかし、初日と2日目が雨となり残念でしたが、最終日には雨も上り多くの人に楽しんでいただけました。特に搾乳体験や水牛、ヒヨコは大人気で、長蛇の列が出来る程でした。紙芝居は、牛乳の出来方やお肉の出来方などを子供向けのストーリーで「食べ物の好き嫌い」はいけません。」と、子供、大人問わずに語りかけました。スタッフ一同ヘトヘトになりながらも最後の一日を楽し



- 75 -

## 北門装飾を終えて

畜産学科三年 中 言 亜 樹

私は収穫祭に大学見学も兼ねて高校三年の時訪ねたことがあります。その時の大学全体で『祭り大好き』といったカラーと家畜苑の牛とヒヨコの愛らしさに本校への志望を強くしたことを思い出しました。

友人が畜友会に入会したのをきっかけに私も収穫祭を運営する側になりました。畜産学科は家畜苑、北門装飾、体育祭、宣伝隊の四つの部門を担当します。どこも私の想像以上に綿密な計画、夜通し続く作業、真剣に取り組む姿に驚き萎縮してしまったほどでした。そして誰もが畜産学科と自分の仲間を誇りにしていて、その中で収穫祭の顔ともなる北門装飾の委員長となり、不安と同時に十分にやりがいと楽しみを感じました。

実際に装飾案を出そうとしてみると、何気無く通っている普通の壁を飾ろうとする非常に難しく、想像だけが広がり、現実的には残らない考え方の繰り返しでした。どうしても作りたいイメージが頭の中にあり、先輩方に色々とアドバイスを頂きながらの作業で途中で無理な計画と気づいたりととてもたよりなく恥ずかしく今でも思います。そんな手際の悪さと人手不足もありかなり無理の続

く毎日でどうすることもできず途方に暮れることもしばしばありました。それだけにものが形になっていくのはこの上なくうれしく、一緒に頑張ってくれた後輩の喜ぶ姿を見て救われる思いがして印象深く残っています。収穫祭が終わり振り返るとやはり後悔の部分もありますが、参加できた喜びと皆への感謝の気持ちのみが残ります。



- 76 -

## 宣伝隊

畜産学科二年 平野博之

第105回収穫祭で、畜産学科統一本部宣伝隊隊長を終えて、今年から宣伝隊という仕事をしてみて、僕は、2つの役割があると思います。

1つは、一人でも多くの人に、この東京農業大学の収穫祭に来てもらうことだと思います。のために、都内宣伝パレード（経堂、町田、二子玉川……）でより多くの人にとってもらうために応援団、チアリーダによるリダーパーク、宣伝隊による野菜配付が主な宣伝活動です。今年の収穫祭は、前半雨に降られたせいかあまり人通りもまばらでしたが、後半雨も上がり目に入る人の数も増えました。前半体育館でやっていた特別ステージとは、たくさんの人々がステージを食い入るように見ていました。その時、僕は、宣伝隊に入り宣伝活動をやってみて本当によかったです。

2つ目は、みこし作り、そのみこしを経堂（農大通り）や宣伝場所で農大生の作ったみこしを練り歩き見てもらうものだと思います。

今年のみこしは、普通のみこしの中にマキバオーナーを乗

せたみこしを作ることにみんなで決めました。土台のみこしの方は、同学年の山元くん中心に作ってもらい、マキバオーナーの方は、僕と去年副隊長の後藤くんと今年副隊長をやる一年生の持田くんを中心を作りました。土台の方では、土台を組み立てるところやちょうどちんに明かりを付けるために、はじめは、マメ電球でやってみたり、ライトで照らしてみたりいろいろ工夫をしてみて最終的にバッテリーから電気を取り電球により明かりを付けることで成功しました。

マキバオーナーは、形を作るために竹をナタで削り、バナーデ由げて形を調整ながら作り、最後に見た目を良くするために、ワタをマキバオーナーの体全体に張るなどの工夫をしました。

学科みこしの本番は、農大通りで行われた経堂パレードです。僕は、学科のみこしの方ではなく十三学科共通のみこし（スーパー・ハーフのペンギン）をかついでいたので、学科の方は、本番みることが出来なかつたけれど、後からビデオや写真を見て、みんなが、みこしをかついでいる姿を見たときに、宣伝隊の人達には悪いけれど、自分自身の本音を言うと、自分の学科のみこしを担いでみたかったです。でも、みんなで作ったみこしをみんなで担ぐ姿を見て、「この畜産学科にはいいって良かった」、畜産学科統一本部（畜友会）に入つて良かった」と思います。約一ヶ月の間、収穫祭・体育祭などのその

## 平成5年度畜友会事業報告

- 12月22日 平成5年度畜友会定期総会
- 3月 1日 畜友会誌「ふじみの第32号」発行
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月21日、22日 新入生学外オリエンテーションに参加（於 富士畜産農場）
- 5月 7日 新入生歓迎会（於 生協食堂グリーン）
- 5月31日～
- 6月20日 第23回学内スポーツ大会参加
- 6月30日 第23回学内スポーツ大会慰労会（於 生協食堂グリーン）
- 7月30日 1年生を対象とした収穫祭説明会（於 富士畜産農場）
- 10月 4日 第102回収穫祭畜産学科統一本部本部開き  
(於 生協食堂グリーン)
- 10月30日～
- 11月 4日 第102回収穫祭参加
- 11月 8日 第102回収穫祭畜産学科統一本部慰労会  
(於 生協食堂グリーン)



日の為に、一つの目標に向かって心が一つに成れる。それが、収穫祭であり体育祭だと思います。だから、この収穫祭に一人でも多く参加して欲しいです。今年、みこしの順位は、3位だったけど今年は、106回のメンバーで1位をみんなで、目指して行きます。そして、いい収穫祭にしていきたいです。

### “ふじみの”の由来

この会誌名“ふじみの”とはいっただいどこからの由来であろうか。第一号では当時学科長でおられた平林先生が「ふじみのの地に由来する」と述べられており、我々取材班は茂原市立図書館の協力によりふじみのの地について調べることができた。

#### ○富士見の概要

富士見地域は旧海軍飛行場の跡地であつて飛行場設置前は旧来郷村町保の地積に属し小字に富士見八貫野、八幡前、東之台寺があり面積凡そ武十丁余反にて町保最初の住民地帯であった。

（茂原市東南部発達史より）

これ以上の事はわからなかつたが、元農大のあつたところに富士見橋という橋があつたことよりおそらくこの富士見から由来したと思える。富士見というのだから昔はこの地から富士山が見えたのだろうか？

東京農業大学農友会第102回収穫祭  
畜産学科統一本部決算報告

	予 算	決 算	差引残高
統 一 本 部	350,000	339,157	10,843
前 夜 祭 ・ 特 別 企 画	10,000	0	10,000
体 育 祭	30,000	24,142	5,858
宣 伝 隊	30,000	29,394	606
北 門 装 飾	10,000	10,000	0
家 畜 苑	10,000	10,000	0
文 化 学 術 展	130,000	130,000	0
計	570,000	542,693	27,307

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立102回収穫祭

畜産学科統一本部会計

水 野 圭 一 ⓪

平成五年度畜友会会計監査

四年 藤 田 里 香 ⓪

三年 鈴 木 一 俊 ⓪

二年 村 上 雅 美 ⓪

一年 友 永 忍 ⓪

平成5年度畜友会決算報告

(平成5年11月30日現在)

収 入 の 部	予 算	決 算	差引残高
前 年 度 繰 越 金 (会費収入)	394,441	394,331	0
新 入 生 生 員 息	1,600,000	1,458,000	△142,000
編 入 生 生 員 息	40,000	30,000	△ 10,000
未 納 会 員 息		1,394	1,394
計	2,034,331	1,883,725	△150,606
支 出 の 部	予 算	決 算	差引残高
卒 業 生 祝 賀 会 費	110,000	119,865	△ 9,865
卒 業 生 記 念 品 費	210,000	206,000	3,382
新 入 生 歓 迎 会 費	150,000	137,790	12,210
「ふじみの」第32号印刷費	400,000	422,300	△ 22,300
学 内 ス ポ ツ 大 会 費	140,000	129,916	10,084
収 穫 祭 説 明 会 費	40,000	61,350	△21,350
収 穫 祭 援 助 費	570,000	542,693	27,307
総 務 費	200,000	39,456	160,544
予 備 費	214,331	180,000	34,331
計	2,034,331	1,839,370	195,041

収入総額 支出総額 次年度繰越金  
1,883,725 - 1,839,370 = 44,355

上記相違ないことを認めます。

平成5年度畜友会会計監査委員

4年 藤 田 里 香 ⓪ 3年 鈴 木 一 俊 ⓪  
2年 村 上 雅 美 ⓪ 1年 友 永 忍 ⓪

## 平成6年度畜友会決算報告

(平成6年11月30日現在)

収入の部	予算	決算	差引残高
前年度繰越金 (会費収入)	44,355	44,355	0
新入生 編入会員 未納会員 利	1,600,000 44,000 240,000 息	1,430,000 32,000 220,000 914	△170,000 △18,000 18,000 △586
計	1,929,855	1,729,269	△200,596
支出の部	予算	決算	差引残高
卒業生祝賀会費 卒業生記念品費 新入生歓迎会費 「ふじみの」第32号印刷費 学内スポーツ大会費 収穫祭説明会費 収穫祭援助費 総務費 予備費	120,000 210,000 140,000 425,000 130,000 65,000 570,000 29,855 240,000	90,618 196,138 108,671 0 228,255 56,886 523,029 67,293	29,382 19,862 31,329 425,000 △98,255 8,114 46,971 △37,438 240,000
計	1,929,855	1,264,890	664,965

収入総額 支出総額 次年度繰越金  
1,729,269 - 1,264,890 = 464,379

上記相違ないことを認めます。

### 平成6年度畜友会会計監査委員

4年 松村正浩	㊞	3年 戸谷直敏	㊞
2年 嶋田奈央子	㊞	1年 神山美津江	㊞

## 平成6年度畜友会事業報告

- 12月13日 平成5年度畜友会定期総会
- 1月19日 平成5年度畜友会臨時総会
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月21日、22日 新入生学外オリエンテーションに参加(於 富士畜産農場)
- 5月11日 新入生歓迎会(於 生協食堂グリーン)
- 5月30日～ 6月18日 第24回学内スポーツ大会参加
- 7月1日 第24回学内スポーツ大会慰労会(於 生協食堂グリーン)
- 7月27日 1年生を対象とした収穫祭説明会(於 富士畜産農場)
- 10月5日 第103回収穫祭畜産学科統一本部本部開き  
(於 生協食堂グリーン)
- 10月31日～ 11月4日 第103回収穫祭参加
- 11月12日 第103回収穫祭畜産学科統一本部慰労会  
(於 生協食堂グリーン)

建立一〇三回収穫祭

総合得点  
腕相撲  
総合成績  
二十人なわとび

5  
6 一八五八六七七八七九六九  
4 2 点位位位位位位位位位位位



総合十一位

バレーボール

バスケットボール

バトミントン

ミニサッカー

ゲートボール

ドッヂボール

剣道

相撲

(女子) (男子) (男子)

## 第二十四回 学内スポーツ大会結果報告

### 東京農業大学農友会第103回収穫祭 畜産学科統一本部決算報告

	予 算	決 算	差引残高
統 一 本 部	350,000	323,415	26,585
前 夜 祭・特 別 企 画	5,000	1,282	3,718
体 育 祭	40,000	35,392	4,608
宣 伝 隊	45,000	41,160	3,840
北 門 装 飾	5,000	4,197	803
家 畜 苑	5,000	5,000	0
文 化 学 術 展	120,000	112,583	7,417
計	570,000	523,029	46,971

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立103回収穫祭

畜産学科統一本部会計

夏目 康子 ㊞

平成六年度畜友会会計監査

四年 松村 正浩 ㊞

三年 戎谷 直敏 ㊞

二年 嶋田 奈央子 ㊞

一年 神山 美津江 ㊞

# 創立一〇二年収穫祭結果報告

前夜祭・特別企画  
総合順位  
前夜祭  
美人コンテスト  
野外劇

体育祭  
総合順位  
綱引き  
各学科対抗リレー  
応援合戦  
櫓装飾

(女子)

八七四九九九  
位位位位位位  
九二三三  
位位位位

## 平成六年度畜友会役員名

平成五年度畜友会定期総会において信任された畜友会役員は、左記の通りで任期は平成六年度畜友会定期総会までとします。

委員長	副委員長	書記	会計	会員外	渉外	企画	庶務
-----	------	----	----	-----	----	----	----

小藤日毛夏福宮斎中徳石須柴山村佐長水土檜峯  
野山崎高利目永田藤谷永岡田田本上木川野田垣岸  
昌涼佳裕康充智伸史忠紀敬孝晶圭雄  
大子仁一子哲惠陸暢英好史子子泉文子一一彰学

飼養	繁殖	經營	繁殖	生理	經營	利用	繁殖	繁殖	飼養	經營	繁殖
(二年)	(二年)	(二年)	(二年)	(三年)	(二年)	(二年)	(二年)	(三年)	(二年)	(二年)	(三年)

- 12月12日 平成6年度畜友会定期総会
- 1月18日 平成6年度畜友会臨時総会
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月14日、新入生学外オリエンテーションに参加（於 富士畜産農場）  
15日
- 5月22日 新入生歓迎会（於 生協食堂グリーン）
- 5月29日～
- 6月17日 第25回学内スポーツ大会参加
- 6月27日 第25回学内スポーツ大会慰労会（於 生協食堂グリーン）
- 7月28日 1年生を対象とした収穫祭説明会（於 富士畜産農場）
- 10月11日 第104回収穫祭畜産学科統一本部本部開き  
(於 生協食堂グリーン)
- 10月31日～
- 11月4日 第104回収穫祭参加

創立  
東京農業大学農友会第104回収穫祭  
畜産学科統一本部決算報告

	予 算	決 算	差引残高
統 一 本 部	350,000	207,822	142,178
前夜祭・特別企画	10,000	8,543	1,457
体 育 祭	40,000	27,614	12,386
宣 伝 隊	50,000	44,283	5,717
北 門 装 飾	10,000	0	10,000
家 畜 苑	10,000	10,000	0
文 化 学 術 展	130,000	126,243	3,757
計	600,000	424,505	175,495

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立104回収穫祭

畜産学科統一本部会計	山 本 敬 子 ㊞
平成六年度畜友会会計監査	四年 佐々木 孝 文 ㊞
	三年 嶋 田 奈央子 ㊞
	二年 土 屋 光 世 ㊞
	一年 山 元 靖一郎 ㊞

創立  
平成7年度畜友会決算報告

(平成7年11月30日現在)

収 入 の 部	予 算	決 算	差引残高
前 年 度 繰 越 金	464,379	464,379	0
(会費収入)			
新 入 生 会 員	1,600,000	1,180,000	△420,000
編 入 生 会 員	52,000	0	△ 52,000
未 納 会 員	240,000	0	△240,000
利 息 及 び 雜 収 入	1,500	180,954	179,454
計	2,357,879	1,825,333	△532,546
支 出 の 部	予 算	決 算	差引残高
卒 業 生 祝 賀 会 費	120,000	75,650	44,350
卒 業 生 記 念 品 費	210,000	226,600	△ 16,000
新 入 生 歓 迎 会 費	120,000	124,877	4,877
「ふじみの」第32号印刷費	425,000	0	425,000
学 内 ス ポ ツ 大 会 費	230,000	135,225	△ 94,775
収 穫 祭 説 明 会 費	60,000	19,542	40,458
収 穫 祭 援 助 費	600,000	424,505	175,495
総 務 費	50,000	30,643	△ 19,357
予 備 費	542,000	0	542,000
計	2,357,879	1,218,037	431,801

収入総額 支出総額 次年度繰越金  
1,825,333 - 1,218,037 = 607,296

上記相違ないことを認めます。

平成7年度畜友会会計監査委員  
4年 佐々木 孝 文 ㊞ 3年 嶋 田 奈央子 ㊞  
2年 土 屋 光 世 ㊞ 1年 山 元 靖一郎 ㊞

## 第二十五回

### 学内スポーツ大会結果報告

総合二位

バレーボール

バスケットボール

ミニサッカー

バトミントン

ドッヂボール

ゲートボール

二十人なわとび

キックベース

十人十一脚

相撲

剣道

総合得点

総合成績

(男子)  
(女子)

(男子)  
(女子)

8	1	五	二	一	五	二	五	八	五	五	五	九
•	0	三	八	三	一	位	位	位	位	位	位	位
3	1	点	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位



### 創立一〇四年收穫祭結果報告

前夜祭・特別企画

総合順位

前夜祭

美人コンテスト

野外劇

体育祭

総合順位

綱引き

各学科対抗リレー

応援合戦

櫓装飾

(男子)

(女子)

六	八	一	七	三	六	六
位	位	位	位	位	位	位

五	一	五	二
位	位	位	位

### 平成七年度畜友会役員名

庶務	企画	書記	委員長
会計	会計補佐	会計外	副委員長
会員	会員	書記	

矢野	小山	福千	熊徳	加森	宮清	増小	柴山	夏藤	中石	水
部	永	場谷	永藤	田家	田野	利田	本目	崎谷	岡野	
剛	昌充	あ宗	伸雅	美智	成久	裕紀	敬康	涼史	圭	
大	哲	か	由	由	一	亮	子	子	子	暢好
哲	ね	矩	英子	紀	恵	男子	一	子	子	一

生理	繁殖	繁	經營	繁殖	生理	利用	繁殖	衛生	衛生	飼養	經營
(二年)	(三年)										

## 平成8年度畜友会決算報告

(平成8年11月30日現在)

収入の部	予算	決算	差引残高
前 年 度 繰 越 金 (会費収入)	607,296	607,296	0
新 入 生 員 編 入 生 員 未 納 会 員 利 息	1,600,000 26,000 344,000 1,500	1,384,000 48,000 300,000 614	△216,000 22,000 △ 44,000 △ 886
計	2,578,796	2,339,910	△238,886
支 出 の 部	予 算	決 算	差引残高
卒業生祝賀会費 卒業生記念品費 新入生歓迎会費 「ふじみの」第32号印刷費 学内スポーツ大会費 収穫祭説明会費 収穫祭援助費 総務費 予備費	120,000 220,000 120,000 425,000 230,000 60,000 600,000 50,000 685,796	118,000 226,600 159,336 0 278,898 22,632 575,591 72,574 112,408	2,000 △ 6,600 △ 39,336 425,000 △ 43,898 37,368 24,409 △ 22,574 573,388
計	2,578,796	1,605,039	973,757

収入総額 支出総額 次年度繰越金  
2,339,910 - 1,605,039 = 734,871

上記相違ないことを認めます。

### 平成8年度畜友会会計監査委員

4年 小野山 昌大㊞ 3年 東宮伸敬㊞  
2年 平野博之㊞ 1年 片山紘子㊞

## 平成8年度畜友会事業報告

- 12月22日 平成7年度畜友会定期総会
- 1月17日 平成7年度畜友会臨時総会
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月22日 新入生歓迎会(於 カフェテリアグリーン)
- 4月26日、新入生学外オリエンテーションに参加(於 富士畜産農場)  
27日
- 5月27日～
- 6月15日 第26回学内スポーツ大会参加
- 6月26日 第26回学内スポーツ大会慰労会  
(於 カフェテリアグリーン)
- 8月 2日 1年生を対象とした収穫祭説明会(於 富士畜産農場)
- 9月 7日～
- 9月 9日 畜友会夏合宿(於 富士畜産農場)
- 10月16日 第105回収穫祭畜産学科統一本部本部開き  
(於 レストランすずしろ)
- 10月31日～
- 11月 4日 第105回収穫祭参加
- 11月 8日 第105回収穫祭畜産学科統一本部慰労会

# 創立一〇五年收穫祭結果報告

前夜祭・特別企画	総合順位	七位	六位	八位	銅賞	ため
野外劇	野外劇	野外劇	美人コンテスト	前夜祭	前夜祭	*野外劇の銅に変わっているのは、第一〇五回
収穫祭より野外劇の順位発表が変更になったため						

競抗の順位	九位
応援合戦	五位
櫛装飾	十位
総合得点	290点

# 東京農業大学農友会第105回収穫祭 畜産学科統一本部決算報告

			予 算	決 算	差引残高
統	一	本 部	350,000	347,686	2,314
前夜祭・特別企画			10,000	10,530	△ 530
体育祭			40,000	40,968	△ 968
宣伝隊			50,000	48,077	1,923
北門装飾			10,000	8,413	1,587
家畜苑			10,000	9,115	885
文化学術展			130,000	110,802	19,198
計			600,000	575,591	24,409

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立 105 回収穫祭

畜産学科統一本部会計

柴田紀子印

## 平成七年度畜友会会計監査

四年 小野山 昌 大 印

三年 東宮伸敬印

二年 平野博之印

- 95 -

- 94 -

## 第二十六回

### 学内スポーツ大会結果報告

### 平成八年度畜友会役員名

平成七年度畜友会定期総会において信任された畜友会  
役員は、左記の通りで任期は平成八年度畜友会定期総会  
までとします。

総合六位	バレーボール	バスケットボール	ミニサッカー	バトミントン	ユニホック	ゲートボール	二十人なわとび	キックベース	腕相撲	総合得点
(女子)	(男子)	(女子)	(男子)	(女子)	(男子)	(女子)	(男子)	(女子)	(男子)	(女子)

1	0	2	4	6	8	9	5	3	2	1
点	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位
二一九	七	四	六	五	五	八	九	四	六	五

- 平成9年度畜友会事業計画（案）
- 2月 上旬 畜友会誌「ふじみの第33号」発行
  - 3月 20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
  - 4月 中旬 新入生学外オリエンテーション参加（於 富士畜産農場）
  - 4月 下旬 新入生歓迎会（於 カフェリアグリーン）
  - 5月 下旬 第27回学内スポーツ大会団結式
  - 5月 下旬～ 6月 中旬 第27回学内スポーツ大会参加
  - 6月 下旬 第27回学内スポーツ大会慰労会
  - 7月 下旬 1年生を対象とする収穫祭説明会（於 富士畜産農場）
  - 8月～ 9月 畜友会夏期合宿
  - 9月 下旬 第106回収穫祭畜産学科統一本部発足
  - 10月 中旬 第106回収穫祭畜産学科統一本部本部開き
  - 10月 31日～ 11月 4日 第106回収穫祭参加
  - 11月 中旬 第106回収穫祭畜産学科統一本部慰労会
  - 1月 上旬 平成9年度畜友会総会

城立 清 松 塩 松 今 熊 堀 德 宇 中 柴 池 増 矢 福 中  
田 石 水 岡 泽 井 泉 谷 永 見 言 田 田 部 永 谷  
豊 智 浩 好 照 知 宗 真 伸 鈴 亜 紀 卓 成 剛 充  
仁 研 愛 子 和 枝 巳 矩 二 英 子 紀 子 夫 男 史 哲 暢

利 利 生 育 育 生 經 繁 繁 繁 繁 飼 飼 經 經  
用 用 理 種 種 理 營 繁 繁 繁 種 養 生 營 生  
(三年) (三年) (三年) (三年) (三年) (三年) (三年)  
(三年) (三年) (三年) (三年) (三年) (三年) (三年)

庶 企 涉 会 會 書 委 副 委 員 長  
務 画 外 會 計 補 佐 計 記 員 長

## 平成九年度畜友会役員名

平成八年度畜友会定期総会において信任された畜友会役員は、左記の通りで任期は平成九年度畜友会定期総会までとします。

委員長	矢部 鈴三	中嶋 鈴三	中嶋 鈴三	矢部 鈴三
副委員長	剛史 彦彦	彦雄 紀紀	和代 代子	和代 代子
企画	経営 (三年)	繁殖 (二年)	育種 (三年)	利用 (二年)
会計	繁殖 (三年)	利用 (二年)	利用 (二年)	利用 (二年)
会計補佐	育種 (三年)	利用 (二年)	利用 (二年)	利用 (二年)
渉外	衛生 (三年)	共通 (三年)	衛生 (三年)	共通 (三年)
庶務	生理 (三年)	經營 (三年)	繁育 (三年)	利用 (三年)
企画	飼養 (三年)	衛生 (二年)	生理 (三年)	利用 (三年)
会計	衛生 (二年)	飼養 (三年)	飼養 (三年)	利用 (三年)
会計補佐	飼養 (三年)	衛生 (二年)	飼養 (三年)	利用 (三年)
渉外	衛生 (二年)	飼養 (三年)	衛生 (二年)	利用 (三年)



## 東京農業大学畜産学科

### “畜友会”規約

#### 第三章 役員及び機関

第六条 一、本会は役員、クラス委員、及び監査をおく。

二、役員には委員長一名、副委員長二名、書記二名、会計一名、会計補佐二名、涉外四名、企画四名、庶務四名とする。

第七条 一、第六条第一項の役員は畜産学科各研究室の三年次生より一ないし二名の候補者を選出する。三年次生は、各研究室より一名ずつ選出する。

二、クラス委員は一、二年次生より若干名を選出する。三年次生は、各研究室より一年次生とする。

三、(1)役員の学年は、委員長にあたっては三年次生とし、副委員長三名のうち、三年次生二名、二年次生一名、会計は三年次生とする。

(2)委員長不在の場合は、副委員長が代行するものとする。

四、第六条第一項の監査員四名は各学年一年ずつ選出する。

五、第六条第一項のクラス委員は原則として五月に選出し、役員会の承認を得た後、直に公示する。

#### 第一章 総則

第一条 本会は東京農業大学畜友会と称す。

第二条 本会は東京農業大学在学生、教職員、及び卒業生をもって、相互の親睦をはかり、本学の発展に寄与することを目的とする。

第三条 本会の事務所は、東京農業大学畜産学科本部におく。

#### 第二章 会員

第四条 本会の会員は左記の三種をもって組織する。

一、正会員

二、特別会員

三、名譽会員

正会員は東京農業大学畜産学科在学生、特別会員は東京農業大学畜産学科卒業生、並びに教職員。名譽会員は役員委嘱により承認を得たもの。

会員が本会の業務執行妨害あるいは名譽を失せる行為をした時は総会の議決により除名する。

六、役員及び監査は定期総会において信任を得るものとする。

七、欠員が生じた場合、速やかに補充しなければならない。

但し、補充役員については、委員長が推薦し役員会において信任を得るものとする。

役員の任期は原則として一年とする。

第十九条 総会は正会員より構成され、本会の最高決議機関とする。

第十一条 総会は正会員の三分の一以上より成立する。

二、委任状は署名捺印（押印を含む）を必要とし、議長に一任する。

三、委任状は総会に際し定足数に含まれる。但し、委任状は議長委任とし、正会員総数の四分の一までとする。

四、委任状の検査は役員が行なう。

第十二条 定期総会は年一回一月に招集する。

臨時総会は左記に該当した場合一ヶ月以内に召集しなければならない。

一、正会員の四分の一以上の同意を得て、開催目的及び召集理由を記載し委員長に提出あるとき。

二、役員の三分の二以上が必要と認めたとき。

第十三条 定期総会に於いて次の事項を審議決定する。

- (1) 前年度の事業報告
- (2) 前年度の会計報告
- (3) 役員の改選
- (4) 当該年度の事業報告
- (5) 当該年度の予算案
- (6) その他

第十四条 総会の開催は七日前に公示しなければならない。

第十五条 総会における議長は、総会においてその都度互選する。必要に応じて議長は副議長を指名する。

第十六条 総会の議決は、出席者の過半数によって議決され、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者の過半数により役員の不信任を可決できる。

#### 第四章 業務

第十八条 第六条第一項、第二項に定められた役員は、本会の最高執行機関たる委員会を構成する。この役員会の召集は、委員長が行う。なお、役員会は月一回開催し、その日時は文書及び

掲示板にて通知する。

第十九条 本会の事業年度及び会計年度は十二月一日より翌年十一月末日までとする。

本会は左記の業務を行なう。

一、会員親睦会  
二、講習会及び研究発表会

三、見学調査  
四、機関紙の発行  
五、その他第二条に附帯する業務

#### 第五章 会計

第二十一条 会費は年間二〇〇〇円とする。その納入は四年分一括し、入学時に納入のこと。

なお編入生は二年分四千円を一括し、編入時に納入のこと。

本会の運営は会員の納入する会費で運営する。但し第十九条の業務執行にあたり臨時徴収する場合もある。寄附行為は認める。

第二十三条 納入金の払い戻しは行わない。但し入学取消しの場合はその限りではない。

第十五条 監査委員は、前条の目的達成の為、年度末に会計監査を行なう。

監査は監査委員が必要と認めれば隨時できる。

監査委員は第六条第一項、第二項の役員の兼任は出来ない。

#### 第七章 附則

第二十七条 本規定解釈の講義は、役員会において、最終的解釈する。

本規定の改正、及び追加は総会においておこなう。

一、本規定は昭和三十五年六月二十九日より施行する。

二、本規定は、平成元年七月七日、一部改定。

三、本規定は、平成八年一月十三日、一部改定。

#### 第六章 監査

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為監査委員をおくる。

## 編集後記

『ふじみの』は昭和三十六年に第一号が発刊され以後平成五年の第三十二号まで発刊されました。平成六年以來発刊が停止していたことをお詫びします。しかし、今年三年ぶりに『ふじみの』第三十三号が発刊することになりました。

この『ふじみの』は、十一月上旬から編集委員長を始め、編集委員が作成しました。お忙しい中書いて頂いた先生方、先輩方そして同輩や後輩の作品が掲載されていますので、ぜひ読んで頂きたいと思います。そして今年ご卒業される先輩方は畜産学科の思い出としてこの一冊を残して頂きたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りしまして原稿を頂いた諸氏、諸先輩に感謝します。

編集委員一同

平成9年3月1日 発行

“ふじみの”第33号

東京都世田谷区桜丘1-1-1

発行所 東京農業大学畜友会

電話 (3420) 2131

編集責任者 中 谷 暢

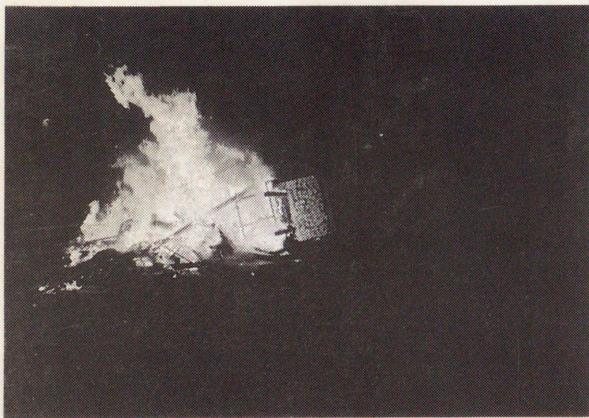
編集長 矢 部 剛 史

発行者 畜 友 会

東京都世田谷区経堂1-6-13

印刷所 エルデ・タイプ社

電話 (3429) 1067



平成7年度 体育祭後のファイアーストーム



平成7年度 体育祭の綱引き



平成7年度 収穫祭の準備

1997